

科目名	基礎造形実習 I (描写)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	描写は全ての造形活動の根幹となる行為であり、自らの手で線を引くところから創作がスタートします。課題を経験することで絵画的表現のみならず広く造形分野で必要となる図画力、形と空間（パースペクティブ）に対する観察力と考察力の基盤を養います。また、人体という普遍的なテーマを理解するために、実際の人体の持つプロポーション・量感・骨格・筋肉・皮膚の動きに着目し、クロッキーからデッサン等による作品制作を通じて、画面における線・面・量・色彩の描写表現と「人体の構造と美」について理解できるようにします。素材・技法としては、画用紙に鉛筆で描写、透明水彩その他の画材で着色による表現を行います。各課題は、「静物・着色」「ヌードデッサン」とし、課題毎の初回授業の1限目に講義形式で課題目的・技法を説明し、その後モチーフを使用した課題作品の制作を行います。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形制作の基となる能動的集中力・持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。 ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。 ・描写（デッサン）における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。 ・人体の骨・筋構造を理解しプロポーション、比率を正確にとる事ができ正しい構図を得ることができる。 ・観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。 ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。 ・観察し描くことを繰り返すことにより、各自の問題点を認識し、正しい方向へ修正し、成果を上げることができる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力/構想力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンス/「静物着色」:レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明</p> <p>02 「静物着色」作品制作1</p> <p>03 「静物着色」作品制作2</p> <p>04 「静物着色」作品制作3</p> <p>05 「静物着色」/講評会</p> <p>06 「静物着色」レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明、クロッキー</p> <p>07 「静物着色」作品制作1</p> <p>08 「静物着色」作品制作2</p> <p>09 「静物着色」作品制作3</p> <p>10 「静物着色」/講評会/次課題説明</p> <p>11 「人体描写」:レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明</p> <p>12 「人体描写」作品制作1</p> <p>13 「人体描写」作品制作2</p> <p>14 「人体描写」作品制作3</p> <p>15 「人体描写」/講評会/次課題説明</p> <p>* 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。</p>
成績評価基準	<p>①受講姿勢、理解度 (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講、制作の準備ができていた。 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・適切な質疑応答ができた。 ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） <p>②成果物（作品）の内容 (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の条件を満たしている。 ・指導を成果に生かすことができた。 ・十分な考察と制作をした。 ・プレゼンテーション <p>以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席/遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。</p>
出席・遅刻の基準	<p>出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。</p> <p>原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。</p>
テキスト(教科書)	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通して置くことを薦めます。
用具	描写用具等一式他。詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形力（描写）は、今後の大学での制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っていても基礎的な造形力がなければ具体的な表現成果につながりません。また目的に必要な形に含まれる線を描く力と空間を把握する力、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要な不可欠となります。また、経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、諦めないで最後までしっかりと取り組み修得してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習 I (造形)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	この授業では造形の要素となる「形」を幾何形態や色による立体表現の課題により理解します。幾何形体のデッサンでは、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。また立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。彩色による立体表現では、基本的な立体を様々な色変換により視覚表現として空間と立体の関係を試し、グレースケールと同一色相、類似色相によって理解します。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形制作の基となる能動的集中力・持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。 ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。 ・描写における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。 ・色彩の基礎（三属性の理解）をベースに、モノクロから色相の相関性を理解し、目的に沿った効果的な配色を考え制作できる。 ・画材を適切に扱うことができ美しい画面を完成させることができる。 ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力/構成力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンス/「基本形態；立方体」：レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明</p> <p>02 「基本形態；立方体」作品制作1</p> <p>03 「基本形態；立方体」作品制作2</p> <p>04 「基本形態；立方体」作品制作3</p> <p>05 「基本形態；立方体」/講評会</p> <p>06 「基本形態；楕円」レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明</p> <p>07 「基本形態；楕円」作品制作1</p> <p>08 「基本形態；楕円」作品制作2</p> <p>09 「基本形態；楕円」作品制作3</p> <p>10 「基本形態；楕円」/講評会/次課題説明</p> <p>11 「混色；立方体」：レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明</p> <p>12 「混色；立方体」作品制作1</p> <p>13 「混色；立方体」作品制作2</p> <p>14 「混色；立方体」作品制作3</p> <p>15 「混色；立方体」/講評会/次課題説明</p> <p>* 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。</p>
成績評価基準	<p>①受講姿勢、理解度 (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講、制作の準備ができていた。 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・適切な質疑応答ができた。 ・制作姿勢 (制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) <p>②成果物 (作品) の内容 (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の条件を満たしている。 ・指導を成果に生かすことができた。 ・十分な考察と制作をした。 ・プレゼンテーション <p>以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席/遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。</p>
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。
テキスト (教科書)	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して (基礎造形実習 II も含む) 使用するので必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。) また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系 (描写、平面、立体等) に関する技法書等が多数ありますので目を通していただくことを薦めます。 PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L 日本色研事業株式会社 1,575 円 新配色カード 199C 日本色研事業株式会社 2,625 円
用具	授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形力 (造形) は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っていても裏付けとなる経験や理由、基礎的な造形力がなければ具体的な結果につながりません。各課題のそれぞれの問題に対して性質や構造を理解できるよう繰り返し考え、その上で教員に質問してください。造形することの意味を考えながら粘り強く制作することで各自に必要な本質的な能力を習得できます。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、しっかりと取り組んでください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習 I (素形材)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	<p>工芸の基本である「手」による素材と技法の実際を習得し、「道具」を使用した制作を行うことで実材造形での基本的な工作原理を養います。グライダー課題では、木を素材とした「ハンド・ランチ・グライダー」を制作します。授業では図面の見方、設計図から完成までの工程を理解し、道具の正しい取り扱いと加工の原理を習得します。これにより素材が目的とする形へと転換する過程を学び、その構造における機能的要素に対する理解を深めます。</p> <p>幾何形体の分割構成は、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。またそれを分割する際の整合性を考えます。立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。</p> <p>紙による立体表現では、素材の扱いから面材の扱い、接合や空間との関係等を意識して美しい立体構成を目指します。</p>
達成目標	<p>グライダー課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図面を読み取ることができ、平面から立体への展開や完成までの正しい工程を理解し実践できる。 ・ 作業での素材の取り扱いや各工程での道具の使用方法が安全かつ適切に行う事ができる。 ・ 制作・組み立てにおいて微細で正確な作業ができ、機能を伴う完成度の高い成果物ができる。 ・ 指導に際して能動的な質疑応答ができる。 <p>幾何分割課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 想定による立体構成・スケッチ～描写表現ができる。 ・ スケッチにて幾何形体を想定し、空間的に構成を考えられる。 ・ 描く幾何形体を正確に理解することで、描写し、分割した場合の形状を細部に至るまで適切に表現できる。 ・ 与えられた条件内で美しい構成による画面制作をする。 <p>紙立体課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立体における素材形状の「面材」を利用し、構造的且つ構造的な美しいフォルムを見つけ出し、紙による立体として制作することができる。 ・ スケジュール管理をし、期日までに作品を仕上げる事ができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力/構想力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	<p>グライダー課題</p> <p>01 課題説明：レクチャー/作業ポイント/制作（主翼）</p> <p>02 制作（水平・垂直尾翼、胴体部）</p> <p>03 制作（機体の組立）</p> <p>04 塗装</p> <p>05 作品提出/講評/錘によるバランス確認 ・飛行/次回課題説明</p> <p>幾何分割課題</p> <p>06 課題説明/制作ポイント/アイデアスケッチ</p> <p>07 アイデアチェック/制作</p> <p>08 制作</p> <p>09 制作</p> <p>10 作品提出/講評/次回課題説明</p> <p>紙立体課題</p> <p>11 課題説明：レクチャー/課題ポイント/ アイデアスケッチ</p> <p>12 アイデアスケッチ～チェック～制作</p> <p>13 制作</p> <p>14 制作</p> <p>15 作品提出/講評/次回課題説明</p> <p>* 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。</p>
成績評価基準	<p>①受講への態度、理解度（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） <p>②成果物（作品）の内容（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション <p>以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席/遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。</p>
出席・遅刻の基準	<p>出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。</p> <p>原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。</p>
テキスト(教科書)	授業に適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	<p>課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）</p> <p>また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。</p>
用具	<p>詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。</p> <p>なお立体制作には各自 1,000 円程度の材料費が必要となります。</p>
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>素材と用具の正しい取り扱い方法、材料加工と作業の意味、色彩による構成・空間的表現の基礎を学びます。様々な課題がもつ目的をよく理解し、伴う表現方法を習得し造形センス・感性を伸ばして欲しい。必要な材料・用具の準備を忘れないようにしてください。</p>

実務経験を活かした授業	
-------------	--

科目名	基礎造形実習 I (デザイン)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	コンピュータの発達により現代は、マウスとキーボードの操作を覚えさえすれば、全くデザインの学習をしていなくとも大抵の事は出来てしまう世の中となった。しかしこのような時代であればこそ、デザインの専門家を目指す者にとって必要不可欠なのは、実際に手を使って線や形を描くことや色を作って塗ることである。これら造形の基礎から学ぶべき事柄は非常に多い。平面デザインを学ぶ上で必要不可欠な平面造形の基礎、並びに色彩や画面構成に関する基本的技術を学習する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題文に書かれた内容を正確に読み取り、作品制作に臨むことができる。 ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。 ・美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。 ・色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。 ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力/構想力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンス/「トーン別色相チャート」:レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明</p> <p>02 「トーン別色相チャート」作品制作;高彩度</p> <p>03 「トーン別色相チャート」作品制作;中彩度</p> <p>04 「トーン別色相チャート」作品制作;低彩度</p> <p>05 「トーン別色相チャート」/修正・講評会</p> <p>06 「色彩構成/幾何」レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明</p> <p>07 「色彩構成/幾何」色対比、彩度対比の把握</p> <p>08 「色彩構成/幾何」有彩色によるシンプルな画面構成の制作</p> <p>09 「色彩構成/幾何」画面構成の把握と修正</p> <p>10 「色彩構成/幾何」/講評会/次課題説明</p> <p>11 「色彩構成/イメージ」:レクチャー/アイデア検討</p> <p>12 「色彩構成/イメージ」:アイデアチェック、作品制作</p> <p>13 「色彩構成/イメージ」作品制作2</p> <p>14 「色彩構成/イメージ」作品制作3</p> <p>15 「色彩構成/イメージ」/講評会/次課題説明</p> <p>* 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。</p>
成績評価基準	<p>①受講姿勢、理解度 (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講、制作の準備ができていた。 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・適切な質疑応答ができた。 ・制作姿勢(制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) <p>②成果物(作品)の内容 (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の条件を満たしている。 ・指導を成果に生かすことができた。 ・十分な考察と制作をした。 ・プレゼンテーション <p>以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席/遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。</p>
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。
テキスト(教科書)	授業にて適宜紹介、プリント等を配布する。
参考書・参考資料等	<p>課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して(基礎造形実習Ⅱも含む)使用するので必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。)</p> <p>また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系(描写、平面、立体等)に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。</p> <p>PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L 日本色研事業株式会社(教材セット販売に含まれています)</p> <p>新配色カード 199C 日本色研事業株式会社(教材セット販売に含まれています)</p>
用具	詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	社会的マナーを身につけることも学習であるので、作品の提出や出席についても厳しく指導をする。加えて特に締め切りは守るように最善の努力を図る。そのためにはスケジュール管理を学ぶことが必須である。
実務経験を活かしした授業	

科目名	基礎造形実習 I (複合造形)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	現代での幅広い創造分野で表現活動を行うためには、確かな表現力に伴う素材・用具の扱いまでを知る事が不可欠です。複合造形の授業ではその基本となる幾何形体の平面的理解から立体的理解に至るプロセスを実際に経験することから始めます。この授業では、素材を用いて作品制作するうえで必要な基本的な用具・道具（鉛筆、消しゴム、ペン、定規、カッター、接着剤等）について初歩的な使用法をマスターします。また同時に1mm以下の単位で制作することで、各自が制作過程の作法・集中力と成果物（完成作品）のクオリティに対して客観的評価ができる観察力を養います。これらは今後のあらゆる実習における創作に対応する観察力の修得の基盤になるものです。また、平面作品における基本的作法の習得および前期・基礎造形実習 I 各授業にて習得し培った成果を確認し、自己検証をするためのコンクール形式の作品制作を行います。これにより限られた時間内でのスケジュール・制作工程を各自が計画し高い完成度の作品制作を目指します。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業、課題の意図、材料・用具の名称、使用法を認識し作業工程を理解・実践できる。 ・ 1mm以下の誤差を確認修正でき、作業を正しい作法により行うことができる。 ・ 展開図において正確な寸法取りで作図できる。 ・ 定規・カッターの正確な扱いにより綺麗に切断ができる。 ・ 接合部の辺の調整が適切にでき綺麗に接合できる。 ・ 完成物の正確さ、美しさが理解できる。 ・ 美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。 ・ 色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。 ・ 授業で経験し修得したことを基盤に設定された時間内で十分に課題の意図に応えることができる。 ・ 与えられたテーマを、習得してきた構成力、色彩計画による画面を自らの狙いの上に適切に実践することができる。 ・ 制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力/構想力/社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 授業ガイダンス/課題説明/「幾何立体」制作 02 「幾何立体」制作 03 「幾何立体」制作 04 「幾何立体」制作 05 「幾何立体」講評/パネル水張り 06 「線・面・多角形」レクチャー/課題ポイント・素材・技法等の説明 07 「線・面・多角形」制作 08 「線・面・多角形」制作 09 「線・面・多角形」制作 10 「線・面・多角形」講評会/次課題説明 11 色彩構成課題/制作 12 課題制作 13 課題制作 14 講評会1 15 講評会2 * 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。
成績評価基準	①受講姿勢、理解度 (50%) ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢 (制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) ②成果物 (作品) の内容 (50%) ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席/遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。
テキスト (教科書)	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して (基礎造形実習 II も含む) 使用するので必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。) また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系 (描写、平面、立体等) に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。 PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L 日本色研事業株式会社 1,575 円 新配色カード 199C 日本色研事業株式会社 2,625 円
用具	詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	初回の授業から受講生への伝達事項が多いので必ず大学指定のバインダーノートを持参のこと。また各授業では配付プリント、用具等を忘れないよう注意してください。作業が出来ない場合があり授業における作品制作の遅れる原因になります。
実務経験を活かした授業	

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	デザイン概論
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	馬場省吾
授業の概要及びテーマ	デザインの専門教育研究機関として設立された長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解し、デザインの発祥から始まり、現在に至るまでの役割の変化、活動領域、デザインワークの実態等を通し、これからのデザインに求められる理念、知識、技術の概要を把握することにより、長岡造形大学におけるデザイン修学の心構えを養う。
達成目標	長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解できている。 デザインの発祥から現在に至る道程を理解できている。 他造形領域とデザインの違いを明確に把握している。 デザインの専門領域毎の特性を理解できている。 経営資源としてのデザインの役割を理解できている。 デザイナーとして獲得すべき資質について認識できている。 将来の社会においてデザインの果たす役割を想定できている。 自らの将来を想定し本学で何を学ぶべきかの指針を持ち得ている。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 長岡造形大学の理念とデザイン事情 02 デザインの発祥と軌跡-1 03 デザインの発祥と軌跡-2 04 造形領域概要 05 美術と工芸 06 空間に関わるデザイン 07 立体に関わるデザイン 08 情報に関わるデザイン 09 デザイナーの就労形態 10 デザイナーの特質 11 経営資源としてのデザイン 12 ブランディングに関わるデザイン 13 デザイナーの倫理 14 デザイン=革新と創造 15 デザインワード&感性
成績評価基準	成績評価の前提条件として、出席率が80%を下回る場合は単位を与えない。 必要に応じて課すミニレポートにて理解度を評価する。 レポート未提出、欠席、遅刻、受講姿勢悪しき場合は減点対象とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドに記載のとおり
テキスト(教科書)	必要に応じ授業当日にプリントを配付。
参考書・参考資料等	必要に応じ配付プリントに参考図書を明示。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この講義を受講していくにつれ、受講生各自が抱いていたデザインへの認識が変化すると思います。 新たな認識の下、以降のデザインに向かう姿勢を再確認し、もし将来設計を変更するようであれば、興味を抱いた領域、内容に付き更に深い認識が持てるよう各自で補習し、2学年からの履修計画立案の参考にして下さい。 予習は、次回の授業計画のテーマにつき自分なりの見識を持つことです。 復習は、興味を抱いた点、疑問を抱いた点など自らが深く掘り下げることです。 されば学生諸君の未来に生じるかもしれないミスマッチを回避できるでしょう。
実務経験を活かした授業	

科目名	色彩学
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	三井直樹
授業の概要及びテーマ	本講義は、あらゆる制作現場で必要となる色彩感覚を磨き、感性を高めるための基本原理を学ぶ。まず、アートやデザインに応用できる色彩学の体系を学習し、そのうえで実用的な配色法とデザインテクニックを習得する。また、実践的に色彩を活用するための造形の秩序、プロポーシオンやテクスチュアなどのかかわりも合わせて論ずる。DTP やモーショングラフィックス等でも活用できる CMYK、RGB のデジタルカラー理論とその配色方法を解説する。多彩なビジュアル資料を併用しながら授業展開をしていく。
達成目標	本科目を履修した学生は、色彩学の意義、色彩理論を理解しながら、色彩に対する感性を磨くことができる。また、実践的な作品制作での配色や作品鑑賞において色彩調和理論を活用することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 色彩と造形：オリエンテーション（色とかたち） 02 色彩理論 01：色彩の原理と混色 03 色彩理論 02：色の表し方（マンセルシステムと PCCS） 04 色彩理論 03：色の知覚と色彩心理 05 色彩調和 01：配色の基本と色彩調和論 06 色彩調和 02：色の表示方法 07 色彩調和 03：同一調和、類似調和、対比調和 08 色彩調和 04：連続多色、ハイキー・ローキー、無彩色 09 色彩調和 05：トーン、マルチカラー、グラデーション 10 配色とデザイン 01：明度差、面積比、基調色、アクセント 11 配色とデザイン 02：テクスチュアと色彩 12 配色とデザイン 03：アート&デザインにおける色彩の役割 13 色彩と造形 01：近現代の美術作品、デザインに見る色彩調和 14 色彩と造形 02：映像と色光 15 理解度の確認、解説とまとめ
成績評価基準	成績評価の前提条件として、出席率が 2/3 を下回る場合は単位取得はできません。「理解度の確認とまとめ」（100%）を基本として評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	三井直樹、三井秀樹『色彩デザイン学』六耀社、2,800 円（本体） 他に適宜プリント配付します。
参考書・参考資料等	ヨハネス・イッテン『色彩論』美術出版社、3,500 円（本体） 三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200 円（本体） 『色彩用語事典』東京大学出版会、15,000 円（本体） 『ハンディクラフトのデザイン学』3,800 円（本体）
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	色彩学とは配色のデザイン学です。色彩理論の理解とともに、色を見分ける感性を養って下さい。本講義を基礎にして、各自の作品制作に還元できることが肝要です。履修条件は特にありませんが、色彩センスを会得したいというモチベーションが不可欠です。授業内で指示のあった教科書の部分については、必ず通読し、復習して下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	クロス実習（プロダクトA）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎齋藤和彦、金澤孝和、菊池加代子、境野広志、土田知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	身近なものをテーマとして、調査～コンセプト～造形検討～プレゼンテーションまでのプロダクトデザインの基本的なプロセスおよびテキスタイルの織りを体験する。デザイナーの実務はボーダーレスな業務がほとんどで、他の専攻の学生であってもプロダクトデザインのプロセスを概観することはメリットが多い。またこのプロセスは、社会活動の多くの場面で有用なものとして近年注目を集めているデザイン思考の方法論でもある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロダクトデザインの基本的なプロセスを理解すること。 ・ デザイン思考を体験の中から体得すること。 ・ 自らの専門領域において役立つようなスキルを身につけること。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>原則二コマ連続で全8回とする。詳細はガイダンス時に説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 01 ガイダンス、開講判断、テーマ説明、プロダクトデザインのプロセス説明 02 プロダクトデザインのデザイン思考について 03 アイデアスケッチワーク 04 スケッチの図面化 05 図面のモデル化（スタイロフォーム）・仕上げ 06 テキスタイル（つづれ織り） 07 テキスタイル（つづれ織り） 08 講評
成績評価基準	基本的な知識の習得度合及び作品で80%、履修態度を20%として評価する。原則、欠席は5点、遅刻は3点減点する。また3回欠席した時点で受講を放棄したものとみなす。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り 原則、遅刻は一コマ目の授業開始後20分までとする。
テキスト（教科書）	必要な資料については授業内で配付する。
参考書・参考資料等	適宜、指示する。
用具	モデル制作用のカッター、定規等。消耗品代として2,000～3,000円必要。
履修制限等	最大開講受講者数は10名とし、開講に必要な受講者数を4名とする。 希望者多数の場合は、レポートで判断する。
履修希望者への要望・事前準備	商品企画やプロダクトデザインに関心がある学生には広く受講を勧めるが、作業はかなり多いので中途半端な意識では臨まないこと。
実務経験を活かした授業	各回の内容に合わせ、それぞれの分野での実務経験を持つ教員が授業を担当する。

科目名	クロス実習（視覚 A）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	真壁 友
授業の概要及びテーマ	Processing を使いコードを使いグラフィックを作成する基本を学ぶ。 Arduino を使いセンサーと入力の基本を学ぶ。 Processing+Arduino でセンサーからの入力に変化するジェネレイティブなグラフィックを作成する。
達成目標	プログラムを使いグラフィックの作成が行える。 インタラクションの基礎を理解し作品の制作が行える。 Processing と Arduino の基礎を理解する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業 (この授業ではインタラクティブな仕掛けを実現するためのコーディング等の造形力の基礎を身につけます。外部からの入力に反応する作品のために情報の取捨選択、取り入れ方、設計などのプロセスを通して構成力を身につけます。)
授業計画	1 Processing の基礎 コードでグラフィックを作るための基礎 2 変数と繰り返し処理 3 マウス、キーボードに反応するアニメーション 4 複数の図形を作成するためのオブジェクト 5 練習課題：時計を作る 6 Arduino の基礎 7 電子回路について 8 電子回路について 9 Arduino を使ったハードウェアのコントロール 10 Arduino と Processing の連携 11 課題説明 12 課題制作 13 課題制作 14 課題制作 15 発表、まとめ 90 分で行う週と 180 分(2 コマ)で行う週があります。全体で 90 分 x15 回となります。
成績評価基準	作品制作のプロセス(50%)、 最終発表(50%)により評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	基本となる資料は授業時間に配付します。
参考書・参考資料等	・ {Arduino を は じ め よ う 第 3 版 (Make:PROJECTS), https://www.amazon.co.jp/dp/487311733X/ref=cm_sw_r_tw_dp_U_x_K3yeEbQ95GKVC } Massimo Banzi ・ {Processing を は じ め よ う 第 2 版 (Make:PROJECTS), https://www.amazon.co.jp/dp/4873117739/ref=cm_sw_r_tw_dp_U_x_j5yeEbT2ABFQF } Casey Reas ・ { 実 践 Arduino! 電 子 工 作 で アイ デ ア を 形 に し よ う, https://www.amazon.co.jp/dp/4274220818/ref=cm_sw_r_tw_dp_U_x_55yeEb4PF01EB } 平原 真
用具	ノートパソコン必須 (Win, Mac, Linux) Processing と Arduino が動作する環境。 Arduino UNO(4000 円程度)の購入が必須になります。初回授業で説明します。
履修制限等	最大開講受講者数は 8 名とし、開講に必要な受講者数を 4 名とする。 受講希望者多数の場合は、抽選等で決定する。
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かし た授業	インストール開発経験のある教員が、その経験を活かして、手法、コーディング等の指導を行う。

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	クロス実習 (美・工A)
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	岡谷敦魚
授業の概要及びテーマ	本学での美術領域である絵画、版画、彫刻分野の実践的授業を通して、美術造形領域を俯瞰的に考察することの一助とします。美術表現といっても、その実際は多岐に及び、専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ経験することができません。本授業を領域横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の自身の創作活動へのヒントとする事を目的とします。少ない時間ですが、専門的な手法の一端を経験することが可能です。本授業内でのプログラムは、年度によって開講しない年があります。本年度の開講するプログラムは、「シルクスクリーン」の1講座です。本講座では、シルクスクリーンの油性インクによる平面作品を制作してもらいます。なお、授業は実習1単位=7回授業となります。
達成目標	専門的表現技法、素材と扱い方、加工方法などを体験します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自のコンセプトを立案し完成まで制作をおこなう事ができる。 ・ 表現に必要な素材と、それに伴う技法の理解ができる。 ・ 制作上のプロセスを理解し、正しく実践できる。 ・ アトリエ内での安全な制作、表現方法を実践できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は年度によって計画される内容が異なります。 ・ 本年度は前期に開講し、内容は1講座「シルクスクリーン」を行います。 ・ 開講する領域での履修人数は、設備等により定員制となります。 ・ 開講内容によっては持参用具、材料費等が必要となる場合があります。 ・ 実習は、集中授業となる場合があります。(原則は1回2コマで実施) 【シルクスクリーン】 01 ガイダンス・紗張り 02 描画・版下製作 03~07 製版・印刷 08 講評会
成績評価基準	授業参加態度・制作姿勢 30%、提出作品等の内容 70% なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	適宜指示する
用具	【シルクスクリーン】クロッキー帳、アイデアスケッチ、鉛筆描画用具一式、エプロンなど汚れても良い服装、その他は授業にて適宜指示する。
履修制限等	最大開講受講者数は10名とし、開講に必要な受講者数を5名とする。 受講希望者が多数の場合は、抽選等で決定する。
履修希望者への要望・事前準備	【シルクスクリーン】を受講する学生は、あらかじめどのような作品を制作するか、アイデアスケッチやパソコンデータでビジュアルイメージを作成し、具体的な作品のイメージを明確にしておくこと。積極的な授業への参加を求めます。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	クロス実習 (美・工B)
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	長谷川克義
授業の概要及びテーマ	<p>本学での工芸領域である金属工芸<鑄金>分野の実践的授業の実際を通して、デザイン造形領域を俯瞰的考察することの一助とします。</p> <p>工芸と言っても、その実際は多岐に及び専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ経験することができません。本授業では、本学の領域を横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の創作活動へのヒントになる事を目的とします。</p> <p>少ない時間ですが専門的な手法の一端を経験することが可能です。</p>
達成目標	<p>各領域の専門的表現技法、素材の扱い方法、加工方法などを経験します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自のコンセプトを立案し完成まで制作をおこなう事ができる。 ・ 表現に必要な素材を理解し、それに伴う技法の理解ができる。 ・ 制作上のプロセスを理解、正しく実践できる。 ・ 工房での安全な制作・加工方法を実践できる。 ・ 工芸の実際を理解することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力/構想力を養う授業
授業計画	<p>* 開講は時間割に則りますが、詳細は初回ガイダンス時に説明します。 (原則は2コマ連続)</p> <p><鑄金>石膏雌型による錫合金を用いたパーパーウェイトの制作</p> <p>01 ガイダンス 02 アイデア検討 03 アイデア決定、油粘土による原型制作 04 油粘土による原型制作 05 鑄型制作 06 鑄造 型割出 07 仕上げ 08 講評</p>
成績評価基準	受講態度および理解度・制作姿勢 60%、成果物の内容 40%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	持参用具などは、初回ガイダンスやパレットで通知する。
履修制限等	<p>最大開講受講者数を 10 名とし、開講に必要な受講者数を 3 名とする。</p> <p>設備や場所の関係から履修人数は 10 名が上限となる。</p> <p>受講希望者が多数の場合は、抽選で決定する。</p>
履修希望者への要望・事前準備	<p>設備や場所の関係から履修人数は上記定員となります。定員を超えた場合は抽選とします。</p> <p>また、材料費が 3,000 円程度かかる場合があります。</p>
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	クロス実習（建築・環境 A）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	A-1 ◎小川総一郎、菅原 浩、福本 壘、渡辺誠介（ランドスケープ・まちづくり系） A-2 川口とし子、◎森 望（ディスプレイデザイン系）
授業の概要及びテーマ	前期の前半はディスプレイデザイン系で、建築・環境デザイン学科のゼミ I に合流して、ショーウィンドウのデザインを行う。後半はランドスケープ・まちづくり系の演習課題サイトを見学し、レポートにまとめる。
達成目標	建築・環境デザイン学科以外の学生が、空間デザイン分野の基礎的な演習や実習を体験し、空間造形を理解し、自らの専門領域の糧にすること。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01. ガイダンス 02～08. ディスプレイデザイン 09～15. ランドスケープ・まちづくり：見学サイト5カ所
成績評価基準	各教員(グループ毎)による。(受講態度、理解度及び成果物により評価する)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指示する
参考書・参考資料等	
用具	ランドスケープ・まちづくり：雨天でも決行しますので、雨具（カッパ）が必要。
履修制限等	最大開講受講者数はそれぞれ 20 名とする。また、開講に必要な人数は、ランドスケープ・まちづくり系は 10 名程度、ディスプレイデザイン系は 3 名とする。 履修者が多数の場合は、抽選等で決定する。
履修希望者への要望・事前準備	空間系に興味がある学生のための授業である。 多少専門的になるが、遅刻せずに出席するように。
実務経験を活かした授業	ディスプレイデザイン事務所に勤務経験のある教員が、ショーウィンドウのデザインを指導する。

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	クロス実習（建築・環境 B）
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎津村泰範、平山育男（保存系）
授業の概要及び テーマ	保存系では解説後に建物や街並みを見学してヴィジュアル的なレポートをまとめる。2019 年度は群馬県の富岡製糸場、魚沼市西福寺、白川郷などを見学した。
達成目標	建築・環境デザイン学科以外の学生のために、建築・環境デザインの範疇を知り、見学や課題により空間系のデザインを学び、提案できるようになること。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	原則 1 回 2 コマにて実施する 01 ガイダンス 02 解説 03・04 歴史的建造物の見学・実習 05 解説 06・07 歴史的建造物の見学・実習 08 成果発表
成績評価基準	受講態度 20%、理解度 20%、成果物 60%により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り 歴史的建造物の見学・実習は必ずすべて参加すること。
テキスト(教科書)	適宜指示する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	最大開講受講者数は 20 名とし、開講に必要な人数は 3 名とする。 履修者が多数の場合は、抽選等で決定する。
履修希望者への要 望・事前準備	歴史的な環境・空間に興味がある学生のための授業です。 目と耳と足を働かせて手を動かしましょう。
実務経験を活かし た授業	

科目名	日本美術史
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	大倉 宏
授業の概要及びテーマ	日本の美術を時代を追って概観します。 「日本美術史」という枠組みは、明治期に西洋に自国文化を体系的に紹介、提示する必要から組み立てが始まりました。そのため草創期には「日本文化」の独自性を証明、提示するという国家的課題を負い、扱う作品にも偏りがありました。その意味で美術史もまた時代の鏡であったと言えます。しかし一世紀半の研究の積み重ねと広がり、そして時代の変化とともに日本美術史も変わってきました。1980年代以降には、美術史が扱ってきた作品群をきわめて個人的視点から語る言説が登場し（例えば橋本治やいとうせいこう）、美術史家たちの言葉もより個人的になります。そこで明らかになってきたことは日本文化の多様性、多層性であったように思われます。 この講義もまた日本美術は多様であるとの視点に立ち、美術史研究の成果をふまえて、私個人の視点も積極的にお話することで、みなさん一人一人が自分の日本美術史を見いだすきっかけを提示したいと思います。
達成目標	1. 講義で紹介する多様な日本美術の表現世界から、現在の自分の関心につれてくるもの発見することができる。 2. 発見した興味ある対象について、正確な理解にもとづきながら、自分の見解を自分の言葉で人に伝えることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	01 〈国家〉から私へ二つの日本美術史 02 誰もいない場所にいる人—仏教伝来以前のイメージの世界 03 人の形をした神、神の形をした人—仏教と中国（大陸・半島）文化の受容と葛藤 04 アイドル誕生—仏教はどう調理され食べられたか（奈良時代の仏教美術） 05 人くさくなつた仏たち—仏教の非仏教化（平安時代の仏教美術） 06 ただの人に帰っていく仏たち—非仏教化した仏教の仏教化（鎌倉期以降の仏教美術） 07 つよいもの、うつくしいもの、わくわくさせるもの—日本人と絵・鎌倉時代までの諸相 08 華麗の変遷—寺院建築の展開 09 外に開く内—禅宗僧侶の周辺（住宅・水墨画・庭園） 10 都という場所—近世の京都美術（宗達光琳派） 11 浮世の住み心地1—浮世絵誕生まで 12 浮世の住み心地2—浮世絵版画の諸相 13 3秒後のコーヒーとクリーム—江戸時代後半の絵（文人画・写生画・蘭画ほか） 14 〈日本〉に支えられた「私」の苦悩—「美術」の誕生 15 日本美術史の忘れ物—「民家」と「民芸」 16 試験
成績評価基準	試験により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業開始時に毎回レジユメを配付する。
参考書・参考資料等	『日本美術の歴史』(辻惟雄 東京大学出版会) ¥2,940 この本は日本美術史の全体イメージをつたえ、授業に沿って読むことで理解のふかまる良書であり、購入を勧める。 そのほかの参考書としては 『ひらがな日本美術史1~7』(橋本治 新潮社) 1、2、7 ¥3,150 3 ¥3,360 4~7 ¥2,940 『見仏記』(いとうせいこう みうらじゅん 角川文庫) ¥672 *価格は変動している場合があります。
用具	特になし。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	日本美術はもっとも身近に「本物」に接することのできる美術です。受講前、受講中、受講後に積極的に機会を捉え実際の作品に接する体験を持つことを希望します。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	西洋美術史
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	瀧本 みわ
授業の概要及びテーマ	古代から20世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。授業では、スライドやプリントを用いて西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。
達成目標	各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を理解し、作品を鑑賞するための美術史の基礎知識と方法論を習得する。そして、芸術作品を読み解くための多角的な視点を通して、デザインを志す学生各人の芸術表現への探求へと導くことを目的とする。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 美術史とは 02 原始時代の美術 03 古代オリエント美術 04 古代ギリシア美術 05 エトルリア美術と古代ローマ美術 06 初期キリスト教美術とビザンチン美術 07 ロマネスク美術 08 ゴシック美術 09 初期ルネッサンス美術 10 中期ルネッサンス美術 11 盛期ルネッサンス美術 12 マニエリスム美術 13 バロック美術 14 ロココ美術、新古典主義、ロマン主義 15 写実主義、印象派、後期印象派 16 試験
成績評価基準	16週目に行う筆記試験と、リアクションペーパーによる評価。 出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	毎回の授業で、図版や参考文献をまとめたプリント資料を配付する。 『体系世界の美術』(全20巻) 学習研究社、『世界美術大全集』(全28巻) 小学館、『人類の美術』(全20巻) 新潮社、『西洋美術の歴史』(全8巻) 中央公論新社
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	美術館、博物館や展覧会に足を運び、美術に関する知見を広めて、作品を見る楽しさを味わうこと。授業中には、スライドにて多くの作品を紹介するので、図書館などで本を手にして図版を眺めたり、作品情報を集めたりして、関心あるテーマを掘り下げていくこと。
実務経験を活かし た授業	

科目名	形態デザイン論
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	三井直樹
授業の概要及びテーマ	自然界のあらゆる形や現象、私たちの身の周りにある様々な造形物には、それぞれ形づくる数理性や造形原理が存在する。こうした形体の発生の原理やメカニズム、造形秩序の法則を理解することによって、クリエイティブな感性を涵養し、造形的な豊かな発想につなげることができる。 本講義は造形原理の根幹をなす構成学の観点から自然の形、人工の形を概観し、「形の美」とは何かという命題を基に造形理論を体系的に学んでいく。また、幅広い分野の映像、ビジュアルを鑑賞し、より高度なアートアンドデザインの発想力（クリエイティビティ）と実践力を培うことを目指す。
達成目標	本講義を履修した学生は、造形美と形をつくりだす原理・法則について理解し、造形的感性を養うことができる。また、構成学の習得によって、作品制作における造形表現へ還元することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 形の体系・1 02 形の体系・2 03 形の見え方とゲシュタルト心理学 04 デザインにおける構成学（構成原理と造形秩序） 05 色彩の錯視と造形表現 06 プロポーションとコンポジション 07 黄金比と分割法 08 黄金比と複雑系美学 09 等量分割と日本美 10 紋様と装飾美術 11 ジャポニスムと近代デザイン 12 バウハウスとジャポニスム 13 オーガニックフォルムと自然の造形 14 シンメトリーの美学 15 理解度の確認、解説とまとめ
成績評価基準	成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位取得はできません。「理解度の確認とまとめ」(100%)を基本として評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	三井秀樹『構成学のデザイントレーニング』六耀社、3200円(本体) 他に適宜プリント配付します。
参考書・参考資料等	三井秀樹『フラクタル造形』(SD選書)鹿島出版会、1,800円(本体) 三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200円(本体) 三井秀樹『オーガニックデザイン』平凡社、2,400円(本体) 三井秀樹『形の美とは何か』NHK ブックス、920円(本体) 北岡明佳『イラストレイテッド 錯視のしくみ』朝倉書店、2,900円(本体)
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義のなかで、さまざまなアート/デザイン領域への造詣を深め、形態に関わる語彙(ボキャブラリー)を広げましょう。作品制作のみならず、作品についてプレゼンテーションを行ったり、文章を書くことも、プロフェッショナルへの大事なスキルです。構成学における造形理論を習得し、美の本質を理解する理論と感性を養いましょう。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸概論
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、鈴木均治、中村和宏、長谷川克義、馬場省吾
授業の概要及びテーマ	<p>美術や工芸は、時代背景と様々な文化の起こりにより、社会と個人の思想、素材と技術の発達などと密接な関係によって発生し展開してきた。人間が文明を開化させた時代から、19世紀の産業革命を経て今日もたらされた世界の縮図で、美術はどの様に変遷してきたのか、また今日で言う工芸と呼ばれる表現形式はどの様に成立し変化せざるを得なかったのか。本講義では各分野、領域が成立してきた時々の事例と其々が求めた志向の概要と創作原因を理解し、存在する多様な価値観と表現特性の要因関係を考えその概要を探る。造形表現の新たな可能性と展開の模索を行うとき、領域を超えて制作者たちの知見を得ることは、今後の創作活動を志向する者たちの基盤と成り得る分析力と考察力、発想力を養うものと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品と作者の認識 ・ アート、デザイン、クラフトの意味と要因の解釈～美術と工芸の枠組み ・ 歴史・地域等から起因する表現と素材の共通性・再生 ・ 手と視点からの創造～美術工芸思考 ・ 造形活動と社会活動
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史の観点から視る造形表現や普遍的魅力の理解と認識ができる。 ・ 目的と素材特性（素材と手法・技法の関連性）が理解できる。 ・ 鑑賞する作品から作者の思考と表現特性を考察できる。 ・ 社会においての造形表現の意義と現性を考えることができる。 <p>※ レポート等課題の体裁および提出は各教員の指示に従うこと。また、提出レポートは講義内容のメモや感想文程度の内容ではなく、授業から考察した自分の考え・意見が述べられている等与えられたテーマに基づいたレポートとしての体裁をなしていること。</p>
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>01~02 美術絵画の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 03~04 版画の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 05~07 美術彫刻の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 08 染織の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 09 漆の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 10 陶芸の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 11 金属工芸の概念<鍛金>、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 12 金属工芸の概念<彫金>、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 13 金属工芸の概念<鍍金>、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 14~15 ガラス工芸の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路</p> <p>* 但し、授業日程は変更になる場合があります。</p>
成績評価基準	レポート評価70%、受講姿勢30%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜配付する。
参考書・参考資料等	必要に応じて指示する。
用具	必要に応じて指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義において紹介される種々の概念の上に今日の表現活動が実践されています。皆さんが日々演習等の授業で取り扱う全ての手法と成果をより深く理解し、考察することを望みます。また、原則全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	現代芸術論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	大倉 宏
授業の概要及びテーマ	日本の現代芸術史は、西欧の芸術動向との関わりに言及されずに語られることが稀です。「西洋化=近代化」が時代の流れであったためですが、そのために見えなくなることもあります。ここでは参照事項として20世紀美術の海外（主に西欧）の動向を確認した上で、私たちにもっとも身近な「日本の現代美術」を日本人自身の表現史としてとらえます。その現代美術の始まりを近代初頭（明治期）の「西洋画」に求めます。日本の近現代美術に流れる共通の大きな課題が「西欧との対決」であったと考えるためです。この大きな課題の中で苦悩しつつ「自分の表現」を模索した12人の美術家たちの作品、生涯、言葉を紹介し、さらに私自身の批評を語ることで、現代の日本において表現者であることの意味を考えるきっかけとしてほしいと思います。
達成目標	1. 講義で紹介する近現代の日本の美術家の作品、人生、言葉から、現在の自分の関心を強く引くものを意識することができる。 2. その関心を引かれるものについて、正確な理解にもとづきながら、自分の見解を自分の言葉で人に伝えることができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 近世から近現代へ（授業コンセプトの説明と20世紀前半の美術の国際的動向について） 02 高橋由一 03 岸田劉生 04 村山槐多 05 古賀春江 06 松本竣介 07 佐藤哲三 08 岡本太郎 09 20世紀後半の美術の国際的動向について 10 赤瀬川原平 11 河原温 12 李禹煥 13 井上有一 14 森村泰昌 15 2000年代の動き 16 試験
成績評価基準	試験により評価する
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業の開始時に毎回資料を配付する。
参考書・参考資料等	『東京ノイズ』大倉宏 アートヴィレッジ ¥1,575 『眼の神殿『美術』受容史ノート』北澤憲昭 美術出版社 ¥2,957 『日本・現代・美術』榎本野衣 新潮社 ¥3,360 『気まぐれ美術館シリーズ』(全六冊セット) 洲之内徹 新潮社 ¥21,000 (なお六冊のうち「気まぐれ美術館」「絵の中の散歩」「帰りたい風景」は新潮文庫版もあったが現在絶版。古書などで入手可能) *価格は変動している場合があります。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	できれば受講前に新潟県立近代美術館、または新潟市美術館など近現代の美術作品を所蔵する美術館の常設展示を観覧しておくこと。また上記の参考書を一冊以上読んでおけば、なお望ましい。
実務経験を活かした授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	美術解剖学
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	伊藤恵夫
授業の概要及びテーマ	造形表現に必要な体表の表現方法についての基礎知識を学ぶ。 造形活動に必要な人体に関する知識を十分理解するとともに、実際に表現された造形作品についてその表現法などを美術解剖学的な立場から学ぶ。
達成目標	① 人体について理解を深め、造形作品の制作に応用できる。 ② 造形表現された「カッコイイ嘘」について、美術解剖学的に分析できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 美術解剖学概論、用語、プロポジション 02 頭部の骨格 03 頭部の筋 04 体幹(脊柱、胸郭)の骨格 05 体幹(頸、胸、腹、背)の筋 06 呼吸(複式呼吸、胸式呼吸)、嚥下 07 上肢の骨格と筋 08 折紙作品とその作成 09 下肢の骨格と筋 10 コントラポスト(ジョジョ立ち) 11 動物美術解剖学 12 空想生物のかたち 13 人体の構造と可動人形 14 植物美術解剖学 15 天象美術解剖学
成績評価基準	授業中に課す提出物またはノート(30%)、学期末試験(レポート)(70%)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	なし。必要に応じてプリントを配付する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	携帯電話・スマートフォンの電源は切る。飲食厳禁。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸特別講義
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎学科長、大巻 伸嗣、小曾川 瑠那、小林 正人、長井 豊
授業の概要及びテーマ	豊富な造形活動の経験と作品表現への深い造詣を持つ作家等を招聘し、美術・工芸を取り巻く最新の動向や経緯、次代に求められる思考力や方向性について幅広く講義を行います。 本講義により幅広い表現領域の現状を認識し、学生各自がその志向と制作・研究活動の方向性を探ると共に各専門分野にて創作に必要なとされる意識や概念、習得すべき技法について考察していきます。 また毎回講義について事前・事後レポート提出を義務付けます。
達成目標	・講師についての事前調査（事前レポート）が己の興味を広げる内容とすることができる。 ・講義後のレポートが講義内容の単なるメモや感想文ではなく、各自の考察・意見が述べられている等、聴講レポートとして体裁をなすことができる。 ＜その内容については、「講義された作家と作品、表現と手法・創作概念の考察」と共に、「各自考察する現在の美術・工芸領域の現状認識」や「講義と関連する自己の制作・表現活動の方向性の考察」を含むものとします。＞
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	講義日程は4回（4名）を後期日程中に設定します。その予定は履修者にパレット等で周知します。 また、受講希望者はガイダンスに出席すること。レポート課題などの指示があります。 01 ガイダンス 02~03 美術表現分野 A 04~05 クラフトデザイン分野 A 06~07 美術表現分野 B 08~09 クラフトデザイン分野 B
成績評価基準	レポート評価70％・受講姿勢30％。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適時指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	現代の作家と作品はいかなるものか、その本質を垣間見るまたとない機会である。皆さんが漠然とイメージしている造形活動との差異は…。作家の言葉をどのように聞き理解するのか、表現の根幹に必要なことは…。緊張感をもった受講を望みます。必ず質問等を用意し講義に臨むこと。 また、レポート課題の全提出を求めます。 美術・工芸学科の学生だけでなく、他学科の学生も是非受講してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	プロダクトデザイン概論
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎池永隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、齋藤和彦、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	<p>プロダクトデザインは、生活のあらゆる場面で接するモノを発想し、形を与え、製品として世の中に送り出し、人々の暮らしを豊かにするモノである。</p> <p>その分野は、身近な雑貨からファッション、テキスタイル、生活雑貨、家電用品、情報機器から自動車やロボットまで多岐に及び。また、生活者との関わりはもとより、企業の経営資源でもあり、社会とも深い関わりを持つものである。</p> <p>本講義は、それら広範な分野におけるデザインのありかたや制作・開発のプロセス、今後の展望などを概観するものである。</p> <p>具体的には、本学科の教員全員が、そのバックボーンを通して各分野の概説を行う講義と、プロダクトデザイン、テキスタイルデザインの歴史についての講義より構成されている。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロダクトデザインの多様な分野の特質・意義を理解すること。 ・ プロダクトデザイン及びテキスタイルデザインの歴史について、概要を理解すること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01 授業ガイダンス・プロダクトデザインとは何か 02 家具・生活用品のデザイン 03 乗り物のデザイン 04 情報機器・家電製品のデザイン 05 インターフェースデザイン 06 プロダクトデザインの歴史Ⅰ 07 プロダクトデザインの歴史Ⅱ 08 プロダクトデザインの歴史Ⅲ 09 テキスタイル(染め)のデザイン 10 テキスタイル(染め)のデザインの歴史 11 テキスタイル(織)のデザイン 12 テキスタイル(織)のデザインの歴史 13 UXデザイン 14 音響・映像機器などのデザイン 15 PD全般に対するまとめと質疑
成績評価基準	各講義においてレポートを提出。 各レポートの得点の平均点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	テーマ毎に必要なにより資料を配布
参考書・参考資料等	
用具	筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	自分の身近にあるプロダクトに対し、常に関心を持ち、インターネット等で該当分野について予習・復習を行うことが望ましい。 概論では、それぞれが独立した分野のようにみえるが、実際には相互に影響しあって新しいモノが生み出されているのであり、それを意識し各回の授業に臨むこと。
実務経験を活かした授業	各分野における実務経験を持つ教員が講義を行う。 家具・生活用品：金澤、 乗り物：齋藤、 情報機器：増田、 インターフェイス：境野、 プロダクト：土田、 テキスタイル(染め)：鈴木、 テキスタイル(織)：菊池、 UX：金山、 音響・映像機器：池永

科目名	視覚デザイン概論
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎金 ボンス、阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、徳久達彦、長瀬公彦、真壁 友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、ヨールグ ビューラ
授業の概要及びテーマ	日常生活で接することのない日はないというほど「視覚デザイン」は、実はとても身近な存在なのです。新聞、雑誌、絵本など印刷物に始まり、CD ジャケットや食品のパッケージ、テレビコマーシャルにウェブサイト、または街中で見かけるサインボードに至るまで、余りにも身近すぎてその存在に気付かない程です。そのように今まで接してきながら意識して来なかった「視覚デザイン」を改めて眺めることにより、社会の中での「視覚デザイン」の果たす役割、またはその成り立ちを知り、これから専門的に学修して行く上での基礎的知識や心構えなどを考えていきます。
達成目標	視覚デザインに関わる文字、印刷、イラストレーション、写真、Web など各分野について基礎知識を深め理解し、専門用語、代表的な作品、作家について説明ができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、視覚デザイン全般(長瀬) 02 日本のしるし(金) 03 グラフィック(山本) 04 地域とデザイン(吉川) 05 デザインと表現技法(金) 06 エディトリアル(天野) 07 イラストレーション(御法川) 08 写真表現(松本) 09 広告写真(阿部) 10 映像表現(ビューラ) 11 コマーシャルフィルムというメディア(山田) 12 広告(水川) 13 デジタル(真壁) 14 Web(徳久) 15 まとめ(金) ※ 順番は変更することがあります。
成績評価基準	小テスト 35%、レポート 45 パーセント、受講態度 20 パーセント。 遅刻・欠席は最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り(授業開始 20 分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります)。 遅刻は 3 回で 1 回の欠席となります。 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。
テキスト(教科書)	テーマ毎に必要なより、プリント等で配付
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	「視覚デザイン概論」は、視覚表現の基礎となる理論を学ぶものです。講義の内容を単に知識として受け止めるだけでなく、演習や実習における制作を通して、その真の意味合いを考えてください。 また日頃から図書館等も利用し、各分野の専門誌を読んでおくこと。 さらに、美術館、ギャラリー等を利用し、本物のアート、デザインの作品に触れる機会を持つこと。
実務経験を活かした授業	様々なデザイン分野での実務経験のある教員が、視覚デザインの基礎を指導します。

科目名	人間工学
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	三村宣治
授業の概要及びテーマ	人間はいまや数多くの道具や機器を使い、人工的な環境の中で暮らしている。それによって物質的には豊かな社会となった。その反面、機器を使うことによる人間の思考や行動の制限、そして人間の精神や肉体への障害が無視できなくなっている。近年のテクノストレスはその典型である。“人間工学”とは、このような人間と機器・環境との関係を、ヒトの形態・心理・生理的特性を考慮して人間/機械系として捉え、人間にとって最適な作業形態・環境・機器・道具を設計するための基礎知識を与える学問分野である。多くの分野に関連し、学際性の高い内容を扱う。
達成目標	人間工学の基礎である次の6項目に関する基礎的な知識・技能および応用力を身につけ、説明できることを目標とする。 1) 人間工学の手法, 2) 形態的特性, 3) 生理的特性, 4) 官能評価手法, 5) 人間/機械系
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 「人間工学」とは 人間工学の歴史的意義と対象。 02 人間の形態的特性1 生体システムの概要と生体計測法、運動機能および動作姿勢の概略。 03 人間の形態的特性2 動作分析や時間研究など、動作・時間測定手法。 04 人間の形態的特性3 人間の形態的特性に基づく作業動作の最適化や作業配置のための指針。 05 人間の形態的特性4 形態的特性のまとめと演習 06 人間の生理的特性1 脳の構造と脳波、心電図および筋電図など生体信号について 07 人間の生理的特性2 人間の感覚、知覚特性 08 人間の生理的特性3 視覚、聴覚など人間の五感と体生感覚の特性。 09 人間の生理的特性4 生理的特性のまとめと演習 10 官能検査手法、SD法など各種測定法の原理。 11 官能検査手法、SD法など各種測定法の利用法。 12 人間とシステムの融合「人間/機械系」1 人間/機械系の概念。 13 人間とシステムの融合「人間/機械系」2 人間/機械系の設計手順。 14 表示装置(ディスプレイ)とコントロールパネルの最適設計1。 15 表示装置(ディスプレイ)とコントロールパネルの最適設計2。 16 期末試験
成績評価基準	成績は、期末試験の成績80%、講義中に行うレポート20%によって総合的に評価する。 総合評価では、達成目標である次の5項目の理解・習得を基準とし、これらを最低限達成した場合、合格とする。 1) 人間工学の手法、2) 形態的特性、3) 生理的特性、4) 官能評価手法、5) 人間/機械系
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じプリントを配付する。
参考書・参考資料等	呉 景龍、塚本一義著『現代人間工学』(森北出版) , 村田厚生著『人間工学概論』(泉文堂)
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	シラバスにしたがい、プリントを使って講義を行うので、講義後復習をしておくこと。
実務経験を活かした授業	産業界において人間工学がどのように応用されているかを、実務経験(自動車関連企業における研究・開発部門での実務経験)に基づき具体的に講義を行う。

科目名	メディア概論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎真壁 友、大野一生、澤 隆志、林 洋介、松本祐一、山田興生
授業の概要及びテーマ	現在メディアと呼ばれている物は多様化してきています。紙、放送、インターネット。これからも今までは思い付かなかったようなモノがメディアとして活躍する可能性もあります。この授業ではそれぞれの分野で活躍している講師から、それぞれの立場から「メディアとは？マルチメディアとは？」を講義します。社会の中では様々なメディアに精通したデザイナーが求められています。この授業ではマルチメディアを「コミュニケーションデザイン」「社会」「技術」の各観点から理解し、その全体像を把握することを目的とします。
達成目標	デジタルメディアの歴史とその広がり的一端を知る。 映像、放送での動画編集の意味について理解するきっかけを得る。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業 (この授業ではメディアの歴史の概略を知り、どのようにメディアが発達してきたのか、現在の状況、そして今後の進む先を考えることにより構想力、そしてデジタルで作るといふことの造形力について考えます。)
授業計画	01 ガイダンス 02 デジタル技術とメディアの歴史 03 デジタル技術とメディアの歴史 04 デジタル技術とメディアの歴史 05 デバイス 06 デバイス 07 ネットアート 08 ネットアート 09 ネットワークと音楽 10 ネットワークと音楽 11 マインドセット 12 マインドセット 13 映像 14 映像 15 まとめと確認
成績評価基準	授業のテーマによりレポート提出、課題があります。 また学期末(15回目)に確認テストを行います。 テストと提出レポートの合計が評価となります。 ・レポート、課題 30% ・学期末確認テスト 70% なお成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	各講師から授業時に指示されます。 また必要に応じてプリントを配付。
参考書・参考資料等	各講師から授業時に指示されます。
用具	
履修制限等	履修者の定員を152人とし、希望者が定員を超える場合には抽選で履修者を決定します。 初回授業で説明と抽選を行います。初回欠席の場合には履修を認めません。
履修希望者への要望・事前準備	各分野の第一線で活躍している先生方を招いてのオムニバス形式の授業になります。デジタルメディアについての内容が多くなります。興味のある人のみ受講すること。また授業中に様々な映像を見る機会があります。映像と音に対して過敏な人は受講をおすすめしません。 出席、提出物、試験の不正に対しては厳しく対処します。
実務経験を活かした授業	各分野で活動実績を持つ講師による授業。

科目名	プロダクトデザイン特別講義
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎池永 隆、上野 和広、玉井 美由紀、松本 有、非常勤講師
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインの第一線で活躍されているデザイナーあるいは、長年活躍されてきた豊富な経験と深い造詣をお持ちの方を講師として迎え、デザインの動向、注目される製品・作品・成果、次代に求められるデザイナー像などを幅広い視野で講義していただく。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前レポートにより、講師の経歴や仕事などのバックグラウンドを理解すること。 ・ 講義レポートにより、講義を受けての自分の考え・意見を記述することができること。 ・ デザイナーの仕事や社会における役割を把握、理解すること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	オムニバス形式で4人の講師が4回の授業を行う。
成績評価基準	毎回のレポートの総合点から、欠席、遅刻点を減ずる。 配点比率 事前レポート (20%) : 講義レポート (80%) 3/4以上の出席、及び事前・講義両レポートの提出が単位修得の必要条件となる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて配付・指示する。
参考書・参考資料等	授業で適宜紹介する。
用具	筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義の前に講師の経歴や仕事について十分に調べ予習とすること。 講義レポートは、復習として講義内容のまとめだけでなく、感想文にならないように意識し、自分自身の考えを記述すること。
実務経験を活かした授業	各業界で活躍する実務経験豊かな講師による授業である。

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	視覚デザイン特別講義
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎真壁 友、太田 岳、五島 一浩、林 俊美、山本 信一
授業の概要及びテーマ	視覚デザインの領域は、広告やグラフィックデザインなどから、写真、映像、デジタルデザイン等、幅広い分野に渡ります。この講義では、それら視覚デザインの分野から代表的なものを抜粋、第一線で活躍されているクリエイターの方々に講師にお招きし、各分野を取り巻く最新の動向や仕事内容についての話を伺います。
達成目標	各クリエイターの仕事や社会におけるデザインの役割を、現実的に把握、そして理解できるようになることが目標です。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	4人の非常勤講師がオムニバス形式で4回の授業を行う。
成績評価基準	成績評価の前提条件として、出席率が3/4を下回る場合は単位を与えない。 また出欠に関し不正があった場合は、不合格とする。 レポート 60% 積極性など授業態度 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて、各講師によるプリントを適宜配付。
参考書・参考資料等	適宜紹介する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講師の方々はいずれも、各分野の第一線で活躍されている方々です。毎講義の前に、講師の方々の仕事、プロフィール等を調べて事前レポートを提出すること。 また、真摯な態度で受講すること。
実務経験を活かした授業	特別講義の非常勤講師は、実際の現場で活躍されている専門家の方々です。

科目名	商品記号論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	佐古仁志
授業の概要及びテーマ	<p>本講義の目的は、記号論の基礎を理解することで広い意味での<デザイン>を身につけ、日常生活を含む実践の場に利用できるようになることである。</p> <p>今日幅広い分野で注目を浴びる「デザイン思考」(さらには「サービスデザイン」と、自分ごととして個別事例を研究し実践する方法である「構成ループ(知のデザイン)」は、それぞれ別の文脈で生じたにもかかわらず、記号論という共通点を持っている。そこで本講義では「デザイン思考」と「構成ループ」という二つの手法を記号論との関係で考察し、実践を通じてこの二つの手法を統合的な仕方ですに身につけることを試みる。</p> <p>具体的には、記号論とデザインの関係について<デザイン>の方法としての「構成ループ」や商品の背後にある記号論的動きを説明する製品意味論を通して理解する。それから記号論を学ぶことで、<デザイン>という営みが商品に単に審美的な価値を与えるだけではなく、私たちが身体を動かし商品を使用するといった人-モノの、さらには、商品を媒介にした人-モノ-人のコミュニケーションを含む日常に深く根差した活動であることを体感し、自らの活動に活かせるようにする。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・製品意味論を理解し、意味のデザインの手法を修得する ・デザインについて記号論的解釈ができる ・デザイン思考について理解する ・構成ループという手法を使用できるようになる ・以上のことを通じて、モノ(商品)をデザインする仕方を<デザイン>できるようになる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01 デザインと記号論：講義の概要と導入 02 デザインの方法Ⅰ：デザインを自分ごとにする 03 デザインの方法Ⅱ：自分ごとにするための方法論 04 デザインの方法Ⅲ：構成的手法とデザインマインド 05 製品意味論Ⅰ：人間中心のデザインとは 06 製品意味論Ⅱ：人間中心のデザインの手法 07 まとめⅠ：デザインと記号論のまとめと「共感」について 08 記号論的思考Ⅰ：パースの記号論 09 記号論的思考Ⅱ：デザインの発想法としてのアブダクション 10 記号論的思考Ⅲ：「投射」と「比喩」について 11 まとめⅡ：記号論的思考のまとめとアフォーダンスとデザインの生態学 12 社会における記号論Ⅰ：ソーシャルと文化記号論 13 社会における記号論Ⅱ：ポピュラー文化とメディアの記号論 14 社会における記号論Ⅲ：パフチンと小説の記号論 15 まとめⅢ：社会における記号論のまとめとレポートの書き方
成績評価基準	3分の2以上の出席を前提に、授業各回のリアクションペーパー(あるいはミニ・レポート)と最終レポートの結果で評価する(平常点40%、最終レポート60%)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り(遅刻は授業開始から20分まで) 原則、毎授業後のリアクションペーパーの提出を出席の条件とする。
テキスト(教科書)	授業中に適宜指示する
参考書・参考資料等	<p>『意味論的転回』(クラウドスクリップンドルフ、共訳、エスアイビーアクセス)</p> <p>『記号論への招待』(池上嘉彦、岩波新書)</p> <p>『デザイン学(思索のコンステレーション)』(向井周太郎、武蔵野美術大学出版局)</p> <p>『ひらめきを計画的に生み出す デザイン思考の仕事術』(棚橋弘季節、日本実業出版社)</p> <p>『誰のためのデザイン?』(D.A. ノーマン、野島久雄訳、新曜社刊)</p> <p>『知のデザイン』(諏訪正樹・藤井春行、近代科学社) 他</p>
用具	特に必要ない
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p><デザイン>は、問題提起、仮説形成、検証、そしてさらなる問題提起という「構成のループ」の連続であり、これは芸術だけでなく、科学にも共通したまさに人間の<知>の手法である。</p> <p>履修生にはこの講義を通じて、私たちが生活することそのものが<デザイン>することであるということを通してほしい。授業の最後にリアクションペーパー(場合によっては次回の授業までに簡単な作品・レポート)を提出してもらい、次の回の授業でコメント(講評)をするので、積極的な参加を期待する。</p>
実務経験を活かした授業	

科目名	ユーザインタフェースデザイン論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	尾田雅文
授業の概要及びテーマ	機器や製品の扱いにおいて、主に「わかりやすさ・使いやすさ」に関するデザインの考え方を学習する。このために、適切なヒューマンインタフェース、人間の認知特性とデザインなどの理解、さらには、社会的課題としてのユニバーサルデザイン（UD）についても取り扱う。
達成目標	デザイン要件としての「わかりやすさ・使いやすさ」を理解し、「ユーザーの立場に立ったデザイン」を自ら発想できるデザイナーとしての基礎的素養、能力の向上を図る。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業 （「社会人基礎力」にあつては、課せられた課題に対して自ら考え、調査結果をエビデンスとして論理的に説明することを通じて、その能力を修得する。「構想力」にあつては、題材となる問題（現状）より、解決すべき課題を抽出し、その解決方法を構想することを通じて、その能力を修得する。）
授業計画	01 ユーザインタフェースとは 02 ユーザインタフェースデザインの背景と関連分野 03 人間の特性 -視覚- 04 人間の特性 -聴覚- 05 人間の特性 -体性感覚- 06 人間の特性 -高齢者・障がい者- 07 入出力機器としくみ 08 インタラクションデザイン 09 GUI デザイン 10 情報の可視化 11 ユーザインタフェースの設計 12 ユーザインタフェースの評価 13 ユニバーサルデザイン -高齢者対応- 14 ユニバーサルデザイン -障がい者対応- 15 ユーザインタフェースの展開
成績評価基準	単位付与の前提条件として、2/3以上の出席を満たすことを原則とする。 成績は、報告書・課題等（70%）、授業態度・小テスト（30%）に基づいて評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	講義資料を毎回配付する （Paletteを通じ配信することを予定していますので、予め、ダウンロードして置くことを推奨します。）
参考書・参考資料等	・「誰のためのデザイン？」D.A ノーマン 新曜社 3,465 円 ・「福祉工学」依田光正 理工図書 2,800 円
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義資料を事前に Palette からダウンロードした上で、記載内容を把握し、授業に備えておくことを推奨します。
実務経験を活かした授業	公設試験場在職時における企業指導の実務経験を活かし、製品の「わかりやすさ・使いやすさ」に関する講義を行います。

科目名	マーケティング論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	上原正孝
授業の概要及びテーマ	<p>マーケティングは低迷する既存商品に新たな価値や需要を創造したり、コンシューマーの潜在的ニーズを掘り起こして売れる商品・サービスを開発したり、価格、流通、コミュニケーション領域を組み合わせて実に様々なビジネスクリエーションを行なう実践科学です。ビジネス成功に不可欠とまで言われる所以です。今やマーケティングは、私企業は言うに及ばず学校・病院・公共機関などの非営利団体や個人に至るまで社会環境の変化に適応して存続と成長をはかっていくことにも積極的に利用されています。その意味でデザインや広告、コミュニケーションもマーケティングの重要な一要素と言えます。</p> <p>講義では学生が身近に接する広告キャンペーン、ブランディング、メディアミックス（マスメディア・ソーシャルメディア）等の広範な題材や事例を取り上げ、その背後に隠れたマーケティング意図を検討します。またデザインを生かした就職を目指す学生にも有益なマーケティングの応用としてのキャリアデザインや起業ビジネス・プランニングにも踏み込む予定です。</p>
達成目標	<p>1、マーケティング目的、要素を具体的に説明できる事 2、マーケティング活動のPDCAを具体的に説明出来る事 3、マーケティングとコミュニケーション、プロモーション、広告の相互関係を説明出来る事 4、ブランディングの目的、機能、役割を説明でき、基礎的デザインが出来る事 5、マーケティング課題に応じた要素の統合とグランドデザイン、プランニングが出来る事 （成績評価の指針）</p> <p>* 1、2、3、の到達を及第点水準とする。 * 上記に加えてより高次の4、5の到達を加算点とする。</p>
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	<p>01 マーケティングとは何か（要素と戦略、広告との関係） 02 製品とターゲット戦略（消費者インサイト分析と絞込み） 03 製品と競合戦略、動機付け 04 ポジショニング開発（ビジネス源泉、競合、標的、動機付） 05 マーケティング要素-1（製品ブランド、価格、流通戦略） 06 マーケティング要素-2（季節、地域、広告・販促戦略等） 07 マーケティングとブランディング 08 キャンペーンデザイン 09 コピー戦略と基本構成要素（誰に、何を、どの様に） 10 コピー戦略と追加的要素（購買誘引、USP等） 11 コピー・ブリーフ（基本要素とフォーマット） 12 メディアプランニング（目標、媒体戦略、媒体ミックス） 13 マス&ソーシャルメディアの活用 14 ソーシャルマーケティング 15 ダイレクトマーケティング 16 期末試験</p> <p>※ 事例紹介形式で上記項目を渾然一体と組み合わせで説明</p>
成績評価基準	<p>数回のレポート 30%、2回の課題 30%、期末試験 40% 試験はノートの持ち込み可、インターネットアクセス可能なデバイスは持ち込み不可とします。 出席を重視し、欠席1回につき2点、遅刻で1点をそれぞれ減点します。</p>
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	特にありません
参考書・参考資料等	<p><毎回の講義資料> 指定テキストは使わず、講義の度に用意するパワーポイントで説明し、指定URLに保存しますのでダウンロードして必要に応じて繰り返し読み返す事が出来ます。</p> <p><参考資料> 「マーケティング入門」・・・実教出版 「広告の科学」・・・中公新書 「高等学校の政治経済・公民・現代社会の教科書」 ※上記は受講するに当たって新たに購入する必要はありませんが、参考にはなると思います。 「マーケティング戦略・コピー戦略」・・・自著サブテキスト ※講義の補助資料として使う事もありますが、必要に応じて指定URLに保存しますのでダウンロード可能です。</p>
用具	<p>PC (Word, Excel, PowerPoint, PDF) 以外は特にありません。 PCは大学の共用PC使用でも可です。 ただし、講義の度に持ち込みは自由ですが、都度持参する必要はありません。</p>
履修制限等	特にありません。
履修希望者への要望・事前準備	<p>このマーケティング論では全15回と言う制約からカバーする領域も主要な項目に限られますが、クリエイターとして広告代理店や制作会社への就職を検討している学生のみならず、将来起業を視野に入れている学生や環境、建築等を含め本学全ての学科生に有益な科目と言えると思います。マーケティングは難解な学問と敬遠する学生も多いと思いますが考え方はシンプルで、柔軟な発想力があれば十分理解できると思います。とは言え、世の中の仕組みや生活者の理解の土台の上に組み立てる実践科学なので高等学校の政治経済・公民の教科書は将来の就職準備を兼ねて是非読んでおいて欲しいです。</p>
実務経験を活かした授業	<p>マーケティングは実践社会科学なので、講師の広告会社でのマーケティング&コミュニケーション実務経験を踏まえ、最大限に将来就職した先でも生かせるような講義内容を目指します。企業での実務経験者、企業に所属し本学講義の聴講受講者、留学生等の受講は大いに歓迎します。</p>

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	広告論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	嶋田 清
授業の概要及びテーマ	<p>広告クリエイティブは大きく変化しています。 「不特定多数に向けた、最大公約数的なメッセージを、複数のメディアで、同時に大量投下するマス広告」の時代から、インターネットとデジタル技術の発達により「個に対して、それぞれのターゲット特性に応じたメッセージを、最適な機会と接点で、多様に発信する。」時代になりました。 本講義では新しい時代のコミュニケーション・デザイン=広告の全体設計の考え方と、いつの時代も変わらないクリエイティブの表現技術の基本について学びます。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブランドの課題を発見できるようになる。 ・ その課題のコミュニケーションの解決策（クリエイティブ・アイデア）を発見できるようになる。 ・ アイデアを発見するための基本技術を身につける。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	<p>01 コミュニケーション・デザイン 02 広告とは何か 03 ブランドとは何か 04 海外の広告 05 ローカル広告 06 公共広告 07 20世紀の広告 08 デジタル広告 09 ストラテジック・プランニング 10 表現技術 アートディレクターの仕事 11 表現技術 コピーライターの仕事 12 表現技術 CMプランナーの仕事 13 広告の作り方 14 最新広告の分析 15 課題好評 上記のテーマを最新の話題に合わせて適宜進めていきます。</p>
成績評価基準	<p>提出課題レポート70%、 授業参加態度30%</p>
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	<p>『表現の技術』 高崎卓馬 電通 1728円 『広告コピーってこう書くだ！相談室』 谷山雅計 宣伝会議 1944円 『広告をナメたらアカンよ。』 山本高史 宣伝会議 1836円</p>
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい情報や話題に積極的に接する姿勢。 ・ 人間や社会を日常的に観察する姿勢。
実務経験を活かした授業	35年あまり広告代理店にてアートディレクターとクリエイティブディレクターの実務経験がある教員がその経験を活かして、広告の企画・制作に関連する基本的な知識や考え方について具体例を基に講義する。

科目名	デザイン感性工学
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	境野広志
授業の概要及びテーマ	感性工学とは、人間の感覚や意思、印象及び好悪といった感情について客観的、定量的なアプローチを試みる研究領域である。デザインとは人とモノを意図した関係でつなぐ行為であり、感性工学はその理論的背景を提供し、また新たな方法を展望するための手法ともなるものである。本授業では感性工学の知見、視点によりデザインの価値、デザイナーの思考過程を論理的に把握、理解することを主要なテーマとする。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 感性工学の意味、役割、理論的背景を理解する 感性工学的手法の理解と演習を通じてその適用方法等を理解する デザインの価値についての定量的な評価を行う デザイナーの思考過程について、モデル化することでそのスキルを客観的に理解する
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業 (本講義は、デザイナーの根源的スキルとして求められる構想力、造形力を理論的に探究、理解することがテーマとなっている。それらを客観的に認識することにより、自らのスキルの向上に資するものとなると考えている。)
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01 ガイダンス、感性工学の概要、歴史概観 02 感性とは 03 人間の視覚認知諸特性 04 人間の認知諸特性 05 美しさの数理 06 工学的手法概観 07 非線形手法(ラフ集合、AHP) 08 多変量解析概要 09 多変量解析演習説明 10 主成分分析/数量化理論Ⅳ類/数量化理論Ⅲ類 11 数量化理論Ⅲ類/重回帰分析/数量化理論Ⅰ類 12 数量化理論Ⅰ類/数量化理論Ⅱ類/判別分析 13 多変量解析補足とまとめ 14 感性/記号論から見たデザインの変遷 15 まとめ
成績評価基準	レポート及びグループワークとしての解析演習で採点する。授業態度及び欠席等で減点する。4回以上の欠席は単位を認めない。原則として欠席は5点、遅刻は3点の減点とする。また欠出に関して不正があった場合は厳正に対処する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	直接必要な資料等はパレットなどで配布する。
参考書・参考資料等	『感性工学』長町三生 海文堂 『システム工学入門』寺野寿郎 共立出版 『経営のための多変量解析』本多正久/島田一明 産業能率大学 『デザインの工学』森典彦 朝倉書店 『キーポイント線形台数』薩摩順吉/四ツ谷晶二 岩波書店 『ラフ集合と感性』森典彦他編 海文堂 『左脳デザインング』森典彦編 海文堂 『ニューラルネットワーク情報処理』麻生秀樹 産業図書 『多変量解析のはなし』有島哲/石村貞夫 東京図書 『デザイン情報学入門』和歌山大学システム工学部デザイン情報学科日本規格協会 『官能評価の基礎と応用』天坂格郎/長沢伸也 日本規格協会
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本授業では、デザインの数理的な解析を手法の軸としている。基本は中学、高校レベルの統計や確率論であり講義においても概略の説明は行うが、不安があれば復習しておいて欲しい。また、これらの手法はあくまでツールであり、講義の本質は人間の感性を考究することにあるので、関心がある学生は学科を問わず受講してほしい。卒研で論文を希望する学生、進学を希望する学生には特に受講を勧める。
実務経験を活かした授業	通信会社にて家庭向け商品のために 人間の認知や感性に関わる技術開発を行った教員が、感性工学について講義を行う。

科目名	サインデザイン論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎金 ボンス、吉川賢一郎、山本 敦、鎌田博美
授業の概要及び テーマ	私たちの身の回りにあふれている各種サインデザインは、社会のコミュニケーションの核として重要な役割を担っています。本講義ではサインデザインを広義の意味でとらえ「サインの歴史・文化」「しるし（シンボル）」「生活の中のサイン」「VI・CI」「インフォグラフィック」を中心に学んでいきます。また、実例や実際の仕事の体験談を紹介しながら、課題やトレーニングを通しそれらを学んでいきます。
達成目標	・社会の中におけるサインデザインの重要性を理解する。 ・身の回りにおけるサインデザインを「プロのデザイナーの目」で客観的に評価、判断できるようになる事。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	01. ガイダンス、サイン・シンボルの歴史① 02. サイン・シンボルの歴史② 03. サイン・シンボルの歴史③ 04. サイン・シンボルの歴史④ 05. 生活環境の中のサイン① 06. 生活環境の中のサイン② 07. 生活環境の中のサイン③ 08. VI・CI① 09. VI・CI② 10. VI・CI③ 11. インフォグラフィック① 12. インフォグラフィック② 13. サインデザインの事例① 14. サインデザインの事例② 15. サインデザインの事例③、総括、授業評価アンケート ※ 授業の予定は一部変更される場合があります。
成績評価基準	課題(80%)と授業態度(20%)を総合的に評価します。 ※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り(授業開始 20 分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。) 遅刻は3回で1回の欠席となります。 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 出欠の異議は授業終了後は受け付けません。
テキスト(教科書)	テーマ毎に必要なにより、プリント等で配付
参考書・参考資料等	・「グラフィックデザイナーのサインデザイン」 デザインノート編集部、誠文堂新光社 ・「図説 サインとシンボル」 アドリアン・フルティガー、研究社 ・「ひと目でわかるシンボルサイン」 交通エコロジモビリティ財団 ・「インフォグラフィックス」 木村 博之、誠文堂新光社 ・「英文サインのデザイン」 小林 章、田代 眞理、ビー・エヌ・エヌ新社 ・「ISOTYPE/アイソタイプ」 オットー・ノイラート、ビー・エヌ・エヌ新社 ・DECOMAS、デコマス委員会、三省堂
用具	筆記用具、ノートパソコン
履修制限等	履修希望者が多数の場合、履修者を選抜します。真剣にサインデザインを学びたい学生のみ受講してください。
履修希望者への要 望・事前準備	小さな課題やレポートが複数ありますが、欠席の日の課題は遅れても必ず提出してください。
実務経験を活かし た授業	サインデザイン分野での実務経験のある教員が、サインデザインの基礎を指導します。

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	パッケージデザイン演習
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山本 敦、大塚麻利子
授業の概要及びテーマ	近年マーケティングの現場では、基本である4P (Product, Price, Place, Promotion) に加え5つ目のPとして Package が注目されています。 パッケージは内容物を保護するための包装に留まらず、店頭 (Point of Purchase) での販売促進活動のツールとしての重要性が増していると考えられます。そこで「売れるパッケージ」、「買いたくなるデザイン」とは何かを学ぶことに力点を置きます。 また、パッケージデザインは「新たな価値」や「ライフスタイルの提案」を伝える重要な手段でもあり、その点をふまえてブランディングや商品企画への展開を併せて学びます。
達成目標	魅力的な商品作りためには優れたパッケージデザインは不可欠です。そのために必要な「立案」、「調査」、「デザイン」、「プレゼンテーション」の能力を身につける事を目標とします。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、第1 課題説明 02 レクチャー、討議、制作と個別チェック 03 レクチャー、討議、制作と個別チェック 04 第1 課題 中間プレゼンテーションと講評 05 レクチャー、討議、制作、個別チェック 06 レクチャー、討議、制作、個別チェック 07 第1 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス 08 レクチャー 第2 課題説明 09 レクチャー、討議、制作、個別チェック 10 レクチャー、討議、制作、個別チェック 11 第2 課題 中間プレゼンテーションと講評 12 レクチャー、討議、制作、個別チェック 13 レクチャー、討議、制作、個別チェック 14 第3 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス 15 第3 課題展示会、講評会 ・ 課題の進捗に応じて受講生と相談の上、日程を変更する場合があります。
成績評価基準	2つの演習課題(課題の出来ばえとともにプロセスとして中間プレゼンテーションやチェックを含む)で評価(50 点+50 点) 欠席は4点、遅刻は2点の減点とし、かつ2/3以上の出席を単位修得の必要条件とします。(遅刻2回で欠席1回と数える)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	『パッケージデザインの教科書』日経デザイン 『パッケージデザインを学ぶ』武蔵野美術大学出版局 『図解でわかるパッケージデザインマーケティング』小川 亮 著 日本能率協会マネジメントセンター 『売れるパッケージ5つの法則と70の事例』松浦 陽司 著 ANIVA BOOKS 『パッケージデザインの勘どころ』六耀社 『100s ビジュアルアイデア：パッケージ&ラベル』グラフィック社 『パッケージデザイン MORE』グラフィック社 『PACKAGE DESIGN』DAAB 社(洋書) 『BOXED AND LABELLED』GESTALTEN 社(洋書) 『包』岡 秀行 著 毎日新聞社
用具	デザイン作業に必要なコンピュータ(必須)、ソフトとしてイラストレーター、フォトショップ(必須) A4サイズ以上のスケッチブックかコピー用紙、その他筆記具、画材(厚紙等素材を含む)
履修制限等	● 短時間でたくさんの内容を盛り込んでいるので、履修生に求められる授業のレベルは高くなります。履修の要件として、パッケージデザインに対し強い興味を持っている、パッケージデザインへの理解を一層深めたいと考えている、パッケージデザイナーを目指している等、明確な目的意識が求められます。 ● コンピュータソフトとしてイラストレータやフォトショップの基本操作が必要となります。 ● 演習はグループによる共同作業と個人作業を組み合わせで行う予定です。本授業は指導の都合上、履修者数 50 名を目安とします。履修希望者が多数の場合は、抽選等により受講者を決定する場合があります。
履修希望者への要望・事前準備	● 筐体のデザインも扱いますが、基本的にはロゴデザインをはじめ、ラベルのグラフィックデザインを主に扱います。 ● 成果物として商品ダミーやモックアップを制作します。その際、厚紙加工のためのカッターワークや簡単な作図が出来るように、インターネットや書籍からテンプレートを手に入れて、それを組み立てたり、既成のパッケージを解体して構造を理解する等の予習をしておくことを薦めます。 ● 基本的に毎回チェックを行いますので、製品やパッケージデザインのための「スケッチ」、「展開図」、「カンパ」等についての知識や技能を高めるように心がけてください。 ● またマーケティング・リサーチから始まり、コンセプトメイク、プレゼンテーションまで、企画立案に関する書籍を読んでおく、授業の理解に役立ちます。
実務経験を活かした授業	大塚麻利子：メーカーのデザイナーとしての実務経験を活かして、パッケージデザインに関連する基本的な知識やデザインを演習を通して指導する。 山本敦：自身の経営するデザイン事務所での地域ブランディングやパッケージデザインの経験を通して、パッケージの基本を指導する。

科目名	デザインマネジメント
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	池永 隆
授業の概要及びテーマ	近年のデザイン活動は、単にモノづくりやその一組織という領域を超え、企業経営を支える経営資源の一部として認識されつつある。その為にデザイナーにも、問題解決手法としてのデザインと、経営を支えるマネジメントの知識が必要な時代となっている。 この授業では、これからのデザインが経営資源としての役割を果たす為に必要な基本的なマネジメントのありかたや、デザインと企業・社会とはどのような関係であるべきかについて考えていく。 社会で活躍するデザイナーを適宜招聘し現場の生の話をしてもらおう機会を作ります。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ マネジメントとデザインの関係性について説明することができる。 ・ 経営的資源としてのデザインの役割とその使命について理解できている。 ・ 組織の問題点を指摘し、マネジメント的見地から問題解決の具体的な対応策を提示できる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス：マネジメントの歴史と経緯 02 経営資源としてのデザイン 03 企業とデザイン組織 04 ブランディング 05 企業とデザインについての考察 06 企画・提案・マーケティング 07 発想とデザインセンス 08 デザインイノベーション 09 評価・検証 10 デザインプロセスに於けるマネジメントの考察 11 PDCAを回す 12 ヒト・モノ・カネ 13 戦略と戦術 14 広告・宣伝・広報 15 考察・デザインマネジメントとは
成績評価基準	各回の授業において、アンケートやレポート等を提出。 各課題提出内容をもとに「達成目標」に照らし合わせて総合的に評価します。 提出課題（アンケート・レポート）の未提出・授業参加態度・欠席回数は最終評価の減点対象となります。 出席率が2/3を下回る場合には、単位を与えられません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜資料を配付します
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	デザイナーにとって、創造的活動を行う際に、つねに経営的視点も必要となる。 そのため社会の動向や情報に対し、アンテナを張っておくことが重要で、新聞・雑誌・ニュースサイトなどを、常にチェックしておくことを習慣づけよう。
実務経験を活かした授業	メーカーのデザイン部門でデザイナーおよびデザインのマネージメントの経験のある教員が、その経験を活かして、企業内でのデザイン業務に関連する基本的な知識や進め方、考え方について講義する。

科目名	知的財産権論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	本多誠一
授業の概要及びテーマ	物品（製品、商品）や情報関連のデザインを創作し、それらを市場において取引・流通させるにあたっては、他人の知的財産を侵害しないこと、自分の創作に係る知的財産を的確に保護することが重要である。本講義は、それらのために必要とされる基礎的な知識が習得できるように、意匠法、著作権法、不正競争防止法などの知的財産権制度全般を概観し考察する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作する者として自分が創作したデザインに関して、法律上発生する権利、取得し得る権利、及び行使し得る権利を常に意識し、これらの説明ができる。 ・ 自分が創作したデザインに関する権利を意識するとともに、他人の創作を尊重し、その権利を侵害しないようにする意識を持ち、これらの意義を説明できる。 ・ 知的財産権制度の体系を知り、これらの概要を説明できる。 ・ デザインを創作しようとする場合、参考にした他人の著作物との関係性を意識すること、また、引用した他人の著作物を適切に明示することを常態として保有し、これを課題作成などにおいて実行できる。
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜、ミニテスト・ミニ課題を実施します。 授業中又は授業終了後に、紙提出又はパレットシステムを介して提出すること。 01 本講義の概要及び進め方、評価方法等に関するガイダンス 02 【知的財産権制度の概要（1）デザインとビジネス】 デザインの役割、デザイナーの役割、企業活動におけるデザインの活用領域、デザイン・プロセスにおける知的財産権 03 【知的財産権制度の概要（2）デザインと知的財産権】 知的財産の特性と保護の意義／知的財産の種類と内容 04 【特許法 技術的アイデアを守る デザイン創作と発明・考案】 特許制度の概要、デザインの技術的側面の保護 05 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（1）】 意匠制度の概要、意匠法で守られる意匠（意匠法上の意匠） 06 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（2）】 意匠登録の要件、意匠の新規性喪失の例外、意匠権 07 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（3）】 部分意匠制度（全体／部分意匠）、関連意匠制度、秘密意匠制度 08 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（1）】 著作権制度の概要、著作物、著作者 09 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（2）】 著作権・著作隣接権、著作権の保護期間 10 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（3）】 著作者人格権、著作権の利用制限 11 【商標法・不正競争防止法等 ブランドを守る デザイン創作と商標・不正競争（1）】 ブランド（ブランディング）と商標、商標制度の概要 12 【商標法・不正競争防止法等 ブランドを守る デザイン創作と商標・不正競争（2）】 商品形態模倣、新たなタイプの商標、不正競争、営業秘密 13 【パブリシティ権等 デザイン創作に関するその他のルールを知る】 パブリシティ権、肖像権、製造物責任法、景品表示法 14 【模倣品対策・契約等 クライアントと契約する】 模倣品対策、契約における留意点、コンペにおける留意点、下請法 15 【知的財産権制度の概要（3）デザイン創作と知的財産の今後】 オープンデザイン、クリエイティブ・コモンズ
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2/3以上の出席を満たす受講者に対してのみ単位付与可否検討対象とする。 ・ 成績は、報告書・課題等（ミニテストを含む。）の提出自体及び内容評価70%、授業姿勢30%とし、総合評価する。遅刻は、3回で1回の欠席扱い。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	・ 講義概要を電子データ資料として、パレットシステムを通じて受講者に学内限りの利用を前提に開示します。授業前にハードコピー乃至各自のPCに格納し、内容に目を通したのちに受講に臨むこと。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	・ パレットシステム（ワープロを含む）の操作習熟を要す。
実務経験を活かした授業	特許庁審査・審判官、弁理士の実務経験を有する教員が講義を行う。

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	機構学
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	磯部浩己
授業の概要及び テーマ	機構学は主に機械系の大学や工業高校などで履修する科目であるが、デザインを学ぶ皆さんもその基本を理解し、将来に役立ててもらいたい。 本講義では機構の基本事項を概説すると共に、身近な機構を例にとり、機構の組み合わせ、運動、働き等について講義する。
達成目標	機械各部の運動を幾何学的、力学的に解析する能力を養い、機械の基本設計に必要な素地をつくる。そのため、各種の機構を例に挙げ、各部の形状や組み合わせによって運動状態がどのようになるかを調べ、さらに希望する運動は、どのような機械要素をどのように組み合わせれば得られるかを理解させる。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	構想力を養う授業
授業計画	01/02 機械と機構 (2回) 03/04 リンク機構の種類と運動 (2回) 04/05 リンク機構の運動解析 (2回) 06/07 カム機構 (2回) 08/09 摩擦伝動装置 (2回) 10/11 巻掛け伝動装置 (2回) 12/13/14 歯車機構 (3回) 15 理解度調査試験 (1回)
成績評価基準	講義毎に提出する理解度報告書で40%、達成目標の理解度調査試験で60%の評価を行う。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	「絵と目でわかる機構学」 住野 和男、林 俊一 著、オーム社
用具	板書するので、ノートを持参すること。また、自筆のノートは、試験時に持ち込み可とする。
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	【物体の移動速度】を移動距離と時間から、【円弧長さ】や【円の面積】を半径と円周率から求められることを前提として履修すること。
実務経験を活かし た授業	

科目名	建築・環境デザイン概論
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎小川総一郎、川口とし子、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	環境デザインとは人間と環境相互の多様な関係に深く係る事象において、その両者の関係をよりよいものとするべく計画し設計するための学問である。従来の細分化されて成立してきた様々なデザイン方法論を再度総合化し、環境デザインの方法論を確立することが究極の目標となるが、本授業では環境デザインを構成している建築デザイン、インテリアデザイン、文化財建造物保存、ランドスケープデザイン、都市計画まちづくりの各領域からの環境デザインへのアプローチを概説することにより、これから専門領域に進む学生に建築・環境デザインの全体像を理解してもらうことをテーマとしている。
達成目標	これから深く学んでいく建築・環境デザインの領域の大筋を理解すること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	本講義は、学科全教員によるオムニバス講義である。 プログラムは以下のとおり。 (講義の順番は、変更する場合あり) 01 建築・環境デザインとは(小川) 02 建築・インテリア論(山下) 03 建築計画・保存論(平山) 04 展示空間概論(森) 05 住宅リフォーム概論(川口) 06 歴史・文化的環境の保存再生概論(津村) 07 建築史概論(平山) 08 建築設計概論(山下) 09 エコロジカル・ランドスケープ概論(小川) 10 建築木文化概論(佐藤) 11 まちづくり概論(渡辺) 12 コミュニティデザイン概論(福本) 13 建築・都市フィールドワーク概論(北) 14 西洋建築意匠概論(白鳥) 15 環境思想概論(菅原)
成績評価基準	毎回の講義について自分の考えをまとめたレポート(400字以上を、毎回、次の週の講義にて提出)により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	随時資料を配付
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築・環境デザイン学科の各分野の概説であるため、各講師がそれぞれの領域で伝えようとしているニュアンスを感じ取ることが重要である。いずれ選択しなくてはならない専門領域が環境デザインにどのようにアプローチしているかを横断的に知ることの出来る講義なので、欠席しないように。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	都市論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	古代から現代まで共通する都市化のメカニズムの原理を解説し、その上で人口減少期を迎えている日本の都市の都市文化の特徴を明らかにする。こうした理論を理解した上で、都市の活性化には地域プライドが重要であるとの見地から、新潟県および長岡市の都市としてのプライドづくりのきっかけとなりうるコンセプトを解説し、地域活性化策を考察する。
達成目標	人口減少社会の地方部において今後の都市住民として主体的に関わる思いを持てるように、地域に意識が向かうことができる。 都市空間のデザインの見方を修得することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>01 人口論 人口の停滞期、減少期に起こる共通の現象が何かを考える。</p> <p>02 祈りと都市の形態 歴史的に都市の形態を追うことで、その時代の祈りの対象が何にあるかを考察する。</p> <p>03 言語論と文化論から考える都市形態 文化圏によって、言語構造が異なる。このことによって、都市構造はどのような変化があるのかを考察する。</p> <p>04 風水と都市形態 中国の長安(西安)などに見られる都市デザイン・風水思想は、韓国のソウルや日本の京都にも見られる。この考え方について考察する。</p> <p>05 鎖国と都市 日本は江戸時代に鎖国することで、エコロジカルな都市群を形成させたと考えられる。鎖国が日本の都市形成に与えた影響を考察する。</p> <p>06 全共闘世代とジェイコブスの都市論 全共闘世代の都市計画を学んだ学生達は、ジェイコブスの都市論に心酔したといわれる。現在の参加のまちづくり、保存のまちづくりの源流に繋がる考え方を学ぶ。</p> <p>07 地方分権と上杉謙信 中世の新潟(越後)を治めた上杉謙信の人生を概括し、地方分権について歴史的に考察する。</p> <p>08 長岡花火の歴史 フェニックス花火ボランティアと連動して、長岡の花火の歴史から長岡の都市の在り方を考察する。なお、講義の順番は、ボランティア受け入れ先の都合で前後することがある</p> <p>09 震災復興とまちづくりの心 後藤新平の台湾、そして震災復興のまちづくりを概括し、日本の近代都市計画の礎には何があるのかを考察する。</p> <p>10 商店街と都市論 現在の中心市街地は商店街としての活力を失っている。その活性化方法を事例を見ながら考察する。</p> <p>11 地域通貨と都市のあり方 現代の社会問題は行き過ぎた資本主義に原因を見出すことが多い。その資本主義に対抗するものとして、老いる貨幣として生まれた地域通貨の背景を学ぶ。</p> <p>12 河井継之助と長岡 明治維新時の長岡人・河井継之助が生きていたら、長岡は日本のスイスになったのか?河井の人生を概括し、考察する。</p> <p>13 山本五十六と長岡 長岡出身の山本五十六は、日米戦争を命を賭して反対していたのに、なぜパールハーバー奇襲攻撃を遂行しなければならなかったのか。長岡精神を考察する。</p> <p>14 新潟県のまちづくり事例(村上) 新潟県には、全国的に注目されるまちづくり活動が多くある。それらの活動を見て、自分の地域について考察する。</p> <p>15 アジアの都市論を考える グローバリゼーション時代にアジア都市の都市はどのように進んでいるか、その課題について考える。</p>
成績評価基準	毎講義の受講態度と期末に提出するレポート課題(5課題)で評価する
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時に配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	大都市についてはほとんど扱いません。地方分権に興味があり、新潟や長岡など地方の振興に興味のある人が受講してください。
実務経験を活かした授業	都市計画審議会など各種都市計画業務に携わる経験を持つ教員が、都市の在り方などについて講義する。

科目名	インテリア
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎森 望、川口とし子
授業の概要及びテーマ	インテリア・ディスプレイデザインに関する講義。現代的インテリア空間やディスプレイデザインをどのように構築するかに焦点をあて、20世紀に世界中で繁栄した現代建築から21世紀の新時代に対して開かれるであろうインテリア・ディスプレイデザインについて考える。またインテリア空間と建築との関係性を学び、ディスプレイデザインの各分野に共通する基礎的な知識を習得し、さまざまな分野における作品を紹介する。
達成目標	住空間、商業空間、公共空間、街空間などをヒューマンスケールから考え、インテリア空間として把握できる。また現代社会におけるインテリア空間についての基礎知識を修得し、様々なインテリア空間の形成手法と、空間を構成する要素を記述することができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、ディスプレイとは? 02 建築とインテリア概論 03 ディスプレイデザインの目的・機能・装飾 04 建築の歴史とインテリア 05 領域別(1) ショーウインドウ 06 伝統素材のインテリア 07 領域別(2) ショップ・ストアー 08 地球環境とインテリア 09 領域別(3) エキジビション 10 水回りのインテリア 11 領域別(4) ミュージアム 12 安心・安全とインテリア 13 領域別(5) アミューズメント 14 建築とインテリアー人と空間の関係性 15 理解度確認テスト、解説。まとめ
成績評価基準	川口と森の授業を交互に開講し、最終日に理解度確認テストを行う。評価は川口担当分のレポート 20%、森担当分の授業中の小課題 20%、理解度確認テスト 60%。なお、欠席は減点する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	『インテリアデザイン教科書』彰国社、『マテリアル・デザイン 2009-10 年度版』彰国社、他
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具などを総合的に捉える視点を持つこと。
実務経験を活かした授業	自身の設計事務所を持っている教員が、住宅リノベーションや店舗設計を指導する(川口)。ディスプレイ事務所に勤務していた教員が、ショーウインドウやイベント空間のデザインを指導する(森)。

科目名	空間安全論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎福本 壘、稲垣文彦
授業の概要及びテーマ	日本には豊かな自然がある一方で、様々な自然現象が起こり、人々が生活を営む空間に応じて災害が発生します。また、ミサイル、テロ、事故、感染症といった脅威にも晒されています。近年に起きた災害を事例に、空間や状況に応じて、「誰にとって何が危険なのか」、「どのような被害を受けるのか」、「その対策や教訓は何か」の各要素を学び、「安全」の基本的な考え方を身に着けます。さらに、私たちの生活に「安全」をどのように取り入れることができるのか具体的な実践に結びつける提案を行えることを目標にします。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本でこれまでに起きた災害の概要を理解し、その教訓を習得していること ・ 安全なまちづくりに関する様々な取り組みとその重要性を理解していること ・ 身の回りの危険について空間や状況に応じた具体的なイメージができること ・ これまで自身が関わった空間の自然災害リスクを調べ、他者に説明できること ・ 空間や状況に応じて、自身の生活に安全を取り入れるための具体的な提案を行えること
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01 「安全」とは何か?について学ぶ: 授業の取り組みのイメージを確認 02 能動的な協働と内発的な自助・共助の重要性 03 災害発生のしくみと被害、教訓を学ぶ①: 地震・津波 04 災害発生のしくみと被害、教訓を学ぶ②: 火災・噴火・風水害・土砂災害 05 災害発生のしくみと被害、教訓を学ぶ③: ミサイル・テロ・事故・感染症 06 災害と空間情報 07 コミュニティ・プロセス・デザイン～災害復興から地域おこしへ～ 08 地域防災計画と復旧・復興計画の概要 09 安全なまちづくりに関する様々な取り組み 10 地域の防災・防犯訓練と自分に必要な防災・防犯訓練 11 安全なまちづくりの取り組み①: 空間に対する理解を促す「Open Street Map」、「防災・防犯マップづくり」、「図上訓練」、「逃げ地図」、「HUG」 12 安全なまちづくりの取り組み②: 現地の救援活動を支援する「DroneBird」、「Crisis Mapping」 13 安全なまちづくりの取り組み③: 人々をつなぐ防災を主題にしたツールとワークショップ「クロスロード」、「防災トランプ」、「シャッフル」 14 課題演習準備: 自身の生活、関わりのある空間に基づく災害リスクを認識する 15 課題演習: 空間や状況を踏まえた「安全」を生活に取り入れるための提案
成績評価基準	<p>学習内容を定着させる簡単な課題: 30%</p> <p>積極的な姿勢: 20%</p> <p>課題演習に対する提案: 50%</p>
出席・遅刻の基準	<p>開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。</p> <p>出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。</p>
テキスト (教科書)	<p>特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配布します。</p> <p>授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。</p>
参考書・参考資料等	<p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 片田敏孝 (2012) 『人が死なない防災』 集英社 (2) 鎌田浩毅 (2015) 『せまりくる「天災」とどう向き合うか』 ミネルヴァ書房 (3) 室崎益輝ほか (2016) 『災害対応ハンドブック』 法律文化社 <p>【参考資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) 神奈川わかものシンクタンク (2016) 『自宅で防災訓練をしたことがありますか? - 自分に必要な防災訓練を考える -』 <p>https://futakoburakuda.org/b-texts/ よりダウンロード可能</p> <ol style="list-style-type: none"> (5) 内閣府 (2016) 『復旧・復興ハンドブック』
用具	授業中に WEB アンケートを実施することがあるので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義は「空間や状況に応じて災害から身を守る方法と考え方」を学び、それを「みなさんの生活に取り入れるための具体的な提案」に着地させることを目標にします。履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの 1 ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。
実務経験を活かした授業	巨大災害時の復旧・復興活動に従事した経験のある教員が、その経験を活かして、空間や状況に応じた危険と安全の考え方について講義する。

科目名	文化財学概論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎津村泰範、大塚和正、武内正和、中山俊介、西田泰民、前嶋 敏
授業の概要及びテーマ	我が国の文化財に関する幅広い知識を養い、その取り扱い方の基礎を学ぶものとし、文化財全般の基礎知識/文化財保護のあゆみと世界文化遺産/建造物の調査研究と保存・活用/集落・町並みに関する調査研究と保存・まちづくり/古文書の見方/埋蔵文化財の調査研究と遺跡の保存整備/文化財の保存科学/民俗文化財の見方と扱い方/美術工芸品（原始～近世）をテーマとします。
達成目標	文化財全般の基礎知識を習得して歴史的遺産の価値と魅力を理解することができるようになり、その個々について、文章などによって概略を示すことができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 文化財全般の基礎知識/課題説明 02 文化財保護のあゆみ/世界文化遺産と日本 文化財保護法/文化財行政/世界文化遺産の登録 03 我が国の文化財保護の取り組み(建造物) 調査と指定/修理と技術/整備と活用 04 古文書の見方、扱い方 古文書の定義/古文書の管理/古文書の扱い/紙と古文書 05 文化財の保存科学 文化財保存の調査/保存処置 06 埋蔵文化財の調査研究 遺跡・遺物・遺構/年代の研究/発掘 07 遺跡の調査研究と保存整備 遺跡の調査と遺構の展示/遺跡整備の事例 08 民俗文化財の見方・扱い方 生活用具、農具などの文化財としての特徴と研究 09 美術工芸品1 原始・古代の工芸品の文化財としての特徴と研究 10 美術工芸品2 中世・近世の工芸品の関する文化財としての特徴と研究 11 課題の中間発表 対象物件の登録、選択理由、進捗状況 12 文化財建造物の見方と基礎知識 種別の分類/構え・構造・意匠/時代・流派・地方性 13 建造物の調査研究 古代、中世、近世の社寺/民家/近代建築・近代化遺産 14 建造物の保存と活用 指定と登録/活用の用途と使い方/活用のための改修と設備 15 課題の発表と意見交換、講評
成績評価基準	授業に臨む姿勢 30%、課題の提出と発表 70%。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。課題は自らが文化財指定候補物件を調査して調書を作成。評価は中間発表を経て、最終回の提出・発表をもっておこないます。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業内容に応じて適宜作成して配付します。
参考書・参考資料等	『わかりやすい文化財保護制度の解説』 ぎょうせい 2,300円 『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり』 学芸出版 3,500円 『入門者のための考古学教室・改訂版』 同成社 1,900円 文化庁提供の国宝・重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財などに関する資料 http://www.bunka.go.jp/bunkazai/index.html
用具	特に必要としませんが、04「古文書の見方、扱い方」では、ハサミが必要です。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	身近にある建物、遺跡、古い生活用具、伝統的な工芸品などに目を向け、それぞれの価値や魅力を見出す力を養ってください。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス 2020

科目名	緑地環境計画
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	小川総一郎
授業の概要及び テーマ	地域環境を理解して地域景観を創出するために、基礎造形実習で習得した技術に磨きをかけ、植物を含む環境を総合的に計画できる基礎知識を習得することを目的とします。
達成目標	植生の基礎知識を習得すること。 景観構成要素を再構築して、コンセプトに適合する将来像を表現し伝えられること。 人の目の高さからの正確なスケッチが描けること。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 エコロジカル・ランドスケープの世界 02 スケール感覚・立体感覚を鍛えよう 03 場とシークエンス 04 サムネイルスケッチとコメント 05 キャンパスツアー：樹木当てクイズ 06 キャンパスツアー回答 07 情景感覚を鍛えよう 08 ものの見え方の仕組みを理解しよう 09 植物群落と造園植栽 10 スケッチシートと断面パース 11 小さな庭 12 植栽計画：即日設計 13 小さな庭プレゼン 14 屋外実習（雪国植物園） 15 屋外実習（雪国植物園）
成績評価基準	課題：小さな庭 60% 小課題とレポート 40% 授業内容の修得に必要な最低出席回数を 10 回とし、出席 10 回未満は採点の対象外とします。 遅刻は出席回数に含めません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,200 円（税別）
参考書・参考資料等	すぐ描ける！ガーデンデザインのテクニック 高崎康隆, 本田奈緒子 彰国社 2,500 円（税別）
用具	スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	後期の「緑地環境設計」、第 3 学年前期「エコロジカル・プランニング」を受講する学生は、本講義の受講をお勧めします。
実務経験を活かし た授業	建設会社及びコンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工について講義する。

科目名	都市デザイン
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	白鳥洋子
授業の概要及びテーマ	自然発生的都市、計画的都市のいずれにおいても、都市では建築と人間の営みが堆積し、変容し続ける。本講義では、各都市の変遷や成熟における原則を考察し、それらを踏まえた建築と都市との関係性、都市の意匠的手法や都市空間について認識を深める。各時代の都市における記念碑的な建築と人々の居住の建築との関係性や、都市的な集住の方法への理解を経て、都市の持つ固有性や普遍性を解き明かすことを目指す。また、時代ともに生成される様々な建築と都市全体を律する計画とその意匠性について論考を行う。主なテーマは「都市の成立：都市の構成要素」、「住宅と都市：集住の形式と地域の固有性」、「都市建築：都市建築の概念と都市の象徴性」とする。
達成目標	以下の3項目を理解し、考察することを目標とする。 1 都市デザインの理解：都市は固有の原則により記念碑的な建築と集住の建築を醸成し、そこにはその都市の固有の人々の生活と都市空間が成立していること。 2 都市が各時代と共に建築と文化を築き、持続するシステムを作り、それが都市であること。 3 都市における建築の組織的な構成を歴史的事例で考察することにより、自らの建築や都市の設計の手法を考える契機とすること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 概説、都市の意匠性 02 都市デザインと都市空間の捉え方について 03 歴史的系譜による都市デザインの概観 04 ヨーロッパの歴史的都市文化を源流として： （1）計画都市と集住の原型と組織性と法則性について 05 （2）計画都市の発展と都市における建築芸術 06 （3）自然発生的都市における都市の意匠性、集住の発展 07 日本の歴史的都市文化を源流として： （1）計画都市と集住の源流と傾向 08 （2）都市の建設における都市計画と建築 09 （3）大都市造営の始まりと都市計画の有機的な法則 10 理想都市の系譜 11 近代都市計画と歴史的普遍性の融合 12 都市建築の高層化、法則と都市空間の源流 13 時代の潮流における都市デザイン 14 郊外の発展、高層集合住宅の限界と都市景観 15 近年の動向、現代建築と都市デザイン
成績評価基準	最終レポート70%、受講姿勢（提出物、出席状況など）30%とする 出席10回未満は採点対象外とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	『都市史図集』、都市史図集編集委員会編、彰国社、1999 『西洋建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、3訂第2版、1981 『近代建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂版、1976 『日本建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂第3版、2011
参考書・参考資料等	適宜、講義中に提示する。
用具	適宜。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築に携わる人は都市的な視点を持っていることが必要です。建築は都市の一部を形成し、都市は建築の集積により成立し、建築を設計することは都市の景観や営みの一部をデザインしているのです。建築は社会的責任を伴い、芸術、科学、人文学などの様々な領域を包含する総合芸術であるとともに、人類の叡智の結晶とも言えるのです。建築の創造には、基礎となる知識の豊かさ、発想の基礎となる感性や洞察力が必要であり、さらには大きなエネルギーが必要です。この講義を通じて、都市と建築が高め合う関係と両者の同時性について認識を深めてほしいと思います。
実務経験を活かした授業	海外現地調査、研究活動を行っている教員が経験を交えて講義を行う。

科目名	居住論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	山下秀之
授業の概要及びテーマ	リビングデザインに深く関わる内容から、グローバルデザインの内容までを看破する。世界の居住は、つい数年前と比べても格段の違いがある。例えば、情報化社会において、家族や家庭のあり方も劇的に変わりつつある。本講では、皆さんに何が重要で、何が重要でないのかを示唆しながら、居住に関する様々な事象を、<コントロール vs 非コントロール>という2項対立で解説し、2項間のどこにバランス地点があるのかを考えてもらう。居住論はデザイン論でもあるので、皆さんの演習におけるコンセプトやデザイン手法を補強するものである。
達成目標	近未来の社会を見すえ、そこでの自身の居住を思い描き、自身のデザイン活動に生かせるようになること。毎回のコメントバックに自論を展開できる能力を身につけること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	01 Simple Life? (居住論は自分の部屋から考える: あなたはシンプルライフ系?) 02 Shibuya Chaos (美は乱調にあり) 03 Sジョブズ (この人のシンプルデザインに対する執念、その魅力あふれる生き様、居住論的見方) 04 番外編1 (コメントバック大会: シンプルとカオスは補完関係にある) 05 Metropolis 1 (20世紀最大の都市-NY マンハッタン) 06 Metropolis 2 (支配と戦争と都市: 独裁か民主か、コントロールか非コントロールか) 07 Cold Region 1 (妖精が出てきそうな地域: 湖水地方、アイルランド、スコットランド、アイスランド) 08 Cold Region 2 (持続的であること、ディープエコロジーへのまなざし: 富良野、そして北欧4国)) 09 Feed Me Better (スローフード発祥地イタリア、最悪の食文化イギリス) 10 番外編2 (コメントバック大会: 輝く北欧~すべてが良いというわけではないが、やはり持続して行く国) 11 The Japanese 1 (私たちは、良くも悪くも日本人) 12 The Japanese 2 (さあ~どうだろう、きれいじゃない) 13 The Japanese 3 (答えは外ではなく、私たちの中にある) 14 Network Society 1 (生のコントロール: 精子バンク、家族あるいは母と子) 15 Network Society 2 (ネット+エコ/- 私たちの基準における「家族」)
成績評価基準	期末レポート100% ただし、出席回数12回以上が条件で、欠席日数に準じて減点あり。 出席11回の場合は、希望すれば、レポートの文字数条件の2倍以上、出席10回の場合は、4倍以上であれば、レポートを受理します。
出席・遅刻の基準	授業開始5分以内を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して1回でも不正が明らかになった場合は、履修を不合格とする。
テキスト(教科書)	オリジナルのプリントを毎回配付
参考書・参考資料等	特になし
用具	特になし
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	普段生活している背景にある良いこと悪いことを掘り下げ、毎回のコメントバックに、自分の考えをさらに発展させ、実践できるようになることを望む。
実務経験を活かした授業	建築家としての設計実務を重ねている教員が、国内老若男女の居住や社会の現状を見通し、豊富な国際業務経験によりリアルなネットワークを活かした講義を行う。

科目名	建築史
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	津村泰範、◎平山育男
授業の概要及びテーマ	<p>原始、古代から近代、現代を通し、主に日本の建築を歴史的に理解します。そして人々が時代ごと、どのように建築と向き合って建築を造って来たのかを知り、考えて行くとともに、現代はどのような課題に直面しているのかを考える材料を提供したいと考えています。</p> <p>授業では、『建築を造る』ということを主基調に講義を進めていきます。個別の題材では「歴史的建造物」として、寺院、神社、住宅について、古代から近代について代表的な建築物を中心に考察・説明を加えます。</p> <p>集落・町並みとしては、古代の平安京、平城京から、江戸の街、各地の歴史的な集落や町並みを扱います。</p> <p>また、近代の建築では諸外国の関係と日本における建造のあり方について論じ、考えていきます。</p>
達成目標	<p>建築の歴史を基礎知識として身につけるとともに、ひとつの建築を前にして、その魅力を自分なりに感じとり、それらを正しく第三者に伝えることができるようになる。それが自分自身にとっての成長ともなり、建築を造るに際しての材料ともなります。</p>
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	<p>〈平山〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 01 原 始：建築の初源とは 02 古代1：古代的な建築はどのように成立し、その特色とは何か 03 古代2：仏教建築はどのように導入して発展をしたのか 04 古代3：神社建築、寝殿造はどのように成立発展したのか 05 中世1：「大仏様」とはどのような建築様式か 06 中世2：「禅宗様」とはどのような建築様式か 07 中世3：密教本堂とはどのような建築か 08 近世1：方丈とはどのような建築か 09 近世2：「権現造」はどのように成立・発展したのか 10 近世3：「書院造」が持つ造形の特徴とは何か 11 近世4：民家とはどのような建築か <p>〈津村〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 12 近代1：洋風建築はどのように導入されたか 13 近代2：近代建築はどのように展開したのか 14 近代3：近代建築の課題 <p>〈平山・津村〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 課題の発表 建築はどのように創られてきたのか？
成績評価基準	講義への取り組み姿勢 20%、小課題 30%、課題（報告）30%、成果発表 20%。なお、小課題は毎回の授業終わりに実施して、次回の授業で返却をします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	『日本建築史図集』 新訂版 彰国社 2500 円
参考書・参考資料等	『日本近代建築史図集』 彰国社 2500 円
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築史は、これまで人々がどのような思いを込めて、建物を築いてきたのかを考える学問の分野です。人がどのようにして建築、ものを創り出したのかをじっくり考えて下さい。
実務経験を活かした授業	いずれも文化財建造物修理設計監理の経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	建築・環境デザイン特別講義
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎小川総一郎、伊藤 拓次郎、木村 勉、斎藤 公男、森 民夫
授業の概要及びテーマ	広く環境デザインに関わる非常勤講師による講義系授業である。各分野でエキセントリックに活躍している専門家を講師として迎え、環境デザインの領域を拡張していく方法を探っていく。すべての講師は世界を股にかけて仕事をしている。国境を越え、分野横断の内容も多く盛り込まれているので、履修者の「気づき」が試される場となるであろう。講師とのディスカッションの時間も設けてあり、講師から見た NID 生の評価も決まることから、それぞれの分野の予習をすることにより、的確な問題意識を持つておくことが重要である。
達成目標	環境デザインの諸分野において活躍している講師に講義していただく。講師について事前調査をし、仕事の内容を把握できること。また、事後レポートが講義内容のメモや感想文ではなく、自分の考え・意見が述べられている等、体裁をなしたレポートを書くことができる。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01 講義のガイダンス・レポートの書き方など(学科長) 02 建築と構造(斎藤) 建築と構造の関係について広い視野から講義を行う。 03 建築と都市(森) 建築と都市のあり方及び、まちづくりを行政の立場から講義を行う。 04 歴史ある建築を活かし未来に手渡す(木村) 歴史や時代を語る建築への関心が高まってきた。世界遺産もブームになって久しい。それらを先人の遺産として未来へ引き継いでいこうとするとき、私たちに何ができるだろう。複雑で急激な変化をもたらす現代社会では、建築をより深く理解し、なぜ・どう遺すべきかの模索が必要だ。いまを生きる私たちにその判断が託されている。 05 国際協力における社会開発のデザイン(伊藤) グローバル化時代に於いては日本人のアイデンティティを別の視点から見ることも必要です。パラグアイの地域おこしのエコツーリズムプロジェクト、ミャンマーの教育プロジェクト、ドミニカ共和国でのフォークメディアを用いた住民参加型保健啓発活動などの事例を紹介しながら、参加者と一緒に考えます。
成績評価基準	講義前に作成する「事前レポート」(講師についての調査)と、講義後に作成する「受講レポート」(講義の内容について自分の考え)により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各講師についての予習と、Q&Aセッションやディスカッション時に、手を挙げて発言すること。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	博物館概論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	津村泰範
授業の概要及び テーマ	博物館と博物館学の基本を理解するとともに、よりよい博物館のあり方を考えます。博物館の多様な姿への理解を求め、現代の博物館のあるべき姿を探ります。
達成目標	博物館の役割を知り、博物館の定義、歴史、現状を学び、それらの概略を博物館や博物館学に関する基礎知識として語ることができるようになる。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う
授業計画	01 ガイダンス：博物館概論を学ぶにあたって 02 博物館学とは何か1：目的・方法・しくみ 03 博物館学とは何か2：博物館学のあゆみ 04 博物館の定義1：博物館と法令 05 博物館の定義2：博物館の種類 06 博物館の歴史1：世界の博物館の発達史 07 博物館の歴史2：日本の博物館の発達史 08 博物館の現状1：日本の博物館の現状 09 博物館の現状2：地域と博物館 10 小課題の発表と意見交換 11 博物館の現状3：一次資料と二次資料/4：展示とは何か 12 博物館の現状5：バリアフリーと博物館/6：災害と博物館 13 小課題の発表と意見交換 14 博物館の現状7：学芸員の役割と使命 15 理解度の確認とまとめ
成績評価基準	授業に臨む姿勢 20%、小課題 30%、理解度の確認 50%、とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。順番で行う発表も履修者は必ず1人1回はしてください。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	テキストは、授業の内容に応じて資料を適宜配付します。
参考書・参考資料等	参考書はテーマに応じて随時紹介します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	博物館は単なる“施設”ではありません。学芸員をはじめとする、そこで働く人々の姿を考えるとともに、社会が求める博物館とはどのようなものなのかをイメージしながら学んでください。日常生活の中で得られる博物館に関する知識・情報の修得に努めてください。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	スノープラン
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎山下秀之、境野広志、長谷川克義、平山育男、ヨールグ ビューラ、上村靖司、本吉弘岐
授業の概要及びテーマ	長岡は豪雪地帯であり、積雪期はあらゆる面で雪への配慮が必要となります。この科目では、雪の基礎的な性状からはじまり、雪国の暮らし、建築やまちづくりへの配慮、雪国独特のランドスケープ、そして雪国ならではの地域活動などについて、その現状と今後のデザインのあり方などについて学びます。
達成目標	長岡にある大学としてその特長を生かし、雪の基本的性状や中越地方における雪の特徴を理解するとともに、今後の雪との共存について、各自の立場でその方法論を考察する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 山下 建築・環境デザインの視点から 02 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (1) 03 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (2) 04&05 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (3:センターの見学) 06 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (4) 07 境野 プロダクトデザインの視点から 08 ビューラ 視覚デザインの視点から 09 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (1) 10 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (2) 11&12 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (3:八海山雪室の見学) 13 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (4) 14 平山 文化財保存の視点から(豪雪地域の文化財民家の見学) 15 長谷川 美術・工芸の視点から(学外見学) (内容や順序が前後する可能性あり)
成績評価基準	課題およびレポート (70%)、出席した上での教員への質問や討議 (30%) により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて適宜プリントを配付する。
参考書・参考資料等	特になし
用具	特になし
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	雪について興味を持つことが第一です。せっかく長岡で生活しているのですから、降雪期になったら実際に雪を良く見て触って、雪の風景や街の中の除雪の様子など、雪に関するあらゆることを興味深く観察して下さい。そしてこれらのことに関して疑問を持ったら、必ず書き留めて各教員に質問して下さい。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	地域協創演習 A～D
学年	2
開講期	前期/後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	専任教員
授業の概要及び テーマ	地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。 年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従うこと。
達成目標	演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。 また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を修得する。
学位授与方針(ディ プロマポリシー)と の関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
成績評価基準	地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当教員がプログラムごとに行う。
出席・遅刻の基準	プログラムの内容により基準が異なる為、担当教員の説明を必ず聞くこと。
テキスト(教科書)	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する可能性がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。
履修希望者への要 望・事前準備	学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス2020

科目名	インターンシップ A・B
学年	2
開講期	前期/後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	<p>企業、自治体、NGO、NPOなどが提供するインターンシップや実習のプログラムに参加し、デザイン業務をはじめとした就業経験をする。</p> <p>受け入れ先に関しては大学からパレットなどを通じて定期的にリストを提示する。また、学生が独自に受け入れ先を探して行くこと（自主型）も可能だが、インターンシップが授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要がある。</p> <p>「自主型の認可基準」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期間5日以上（22.5時間以上、1単位） ・ 実際の就業体験やデザインワークなどの体験を主とするもので、会社説明・業界説明を主とするものではないこと。 <p>なお、この基準はあくまで単位認定のためのものであり、単位認定を受けないインターンシップや実習への参加を拘束するものではない。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務における知識や技術を習得すること。 ・ 実社会において労働することの具体的なイメージを掴み、仕事観を醸成すること。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	<p>参加の1週間前までに「インターンシップ届」をキャリアデザインセンターに提出すること。学生が独自に探してきた受け入れ先に関しては大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。</p> <p>インターンシップ最終日には主催の担当者から「インターンシップ・ボランティア実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後1か月以内に「インターンシップ・ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実務内容が具体的にわかる資料」、「実施内容の報告書」をキャリアデザインセンターに提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。</p> <p>詳細は履修ガイドを参照すること。</p>
成績評価基準	担当教員が受け入れ先によって記録された評価と、学生が提出した実習報告書等を元に総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	インターンシッププログラムによっては、ポートフォリオや書類による事前審査が必要とされるものもある。希望のプログラムに参加するためには、何より日々の授業における研鑽が必要である。
実務経験を活かした授業	

科目名	ボランティア実習 A・B
学年	2
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	<p>「暗いと不平を言うよりも自ら進んで灯りをつけなさい」。これはマザーテレサの奉仕の精神を表す言葉です。本授業ではこの奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことをテーマにしています。</p> <p>具体的には下記の種類を想定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域からの要請を大学で受けたものを本授業のプロジェクトとする方式 2) 社会福祉協議会等とおした福祉型ボランティア 3) 災害復興関連組織を通じた復興支援ボランティア 4) 国際協力関連組織（NGO 等）を通じた国際ボランティア
達成目標	自ら進んで社会の課題に対して自分の技能を通して奉仕することができる
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域要請プロジェクトの場合 <ol style="list-style-type: none"> 01 主査教員によるガイダンス 02～14 ボランティア実践 15 報告 <p>*特に長岡大花火大会関連のボランティアが大人数要請されています</p> 2) 自主活動型のプロジェクトの場合 <p>学生が独自に受け入れ先を探してくること（自主型）も可能です。ボランティア活動が授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要があります。</p> <p>「自主型の認可基準」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間3日以上（22.5時間以上、1単位） ・科目趣旨を満たす内容であること <p>※自主型の場合、参加の1週間前までに「履修事前申請シート」を事務局に提出すること。 大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。 活動最終日には受け入れ先の担当者から「インターンシップ・ボランティア実施証明書」の必要所記入と捺印を受ける。 終了後1か月以内に「インターンシップ・ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実務内容が具体的にわかる資料」、「実施内容の報告書」を事務局学務課に提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。 詳細は履修ガイドを参照すること。</p>
成績評価基準	事前にボランティア計画を立て、計画を実践できたかを受け手側からの報告で確認する。また、この経験を通して社会人基礎力の向上が達成できたか提出レポートの報告から評価する。
出席・遅刻の基準	ボランティア計画に基づいて受け入れ側に判断してもらう。 仮に遅刻、欠席が事前に分かっていた場合、先方に事前連絡を入れることは社会人基礎力の一つである。
テキスト(教科書)	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	比較的体力を要するプログラムが多いので体調管理に留意すること。 社会人基礎力をつける経験と考えてもらいたく、積極的参加を望む。
実務経験を活かし た授業	